

第五回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集

一般の部

入賞・入選作品

最優秀賞 題詠「歩」一首

小夜中の横断歩道の縞模様わたしの恋の幕引きをする

山口県光市

瀬戸内 光

最優秀賞 自由題 一首

母さんは忘れていいよ思い出は私が全部覚えてるから

秋田県秋田市 蓬田 真弓

優秀賞

題詠「歩」二首

飛行機の青い時間の輪郭に夏の体が歩みをとめる

群馬県みなかみ町

山崎 杜人

物置の埃かぶった歩行器にあの日食べてたケチャップのあと

群馬県みなかみ町

大山 智也

優秀賞

自由題

二首

多すぎる取引先の「田村さん」名前と地名で呼び分けてみる

群馬県みなかみ町

篠原 香代

過疎と過疎つなぐ隘路に忽然と大佐おおざれ礼隧道とふ空気柱

愛媛県松山市

宇和上 正

選者賞・伊藤一彦選 題詠「歩」二首

さざ波のごと昔話しを語る母生きてきし歩み吾に伝へる

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

生まれし日赤飯持ちて吹雪くなか一里歩けりと祖母が語りぬ

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

選者賞・伊藤一彦選 自由題 二首

堂々と化粧落すか人前で二ツの耳持つ上越の岳^{やま}

群馬県みなかみ町

野澤 武

手を伸ばし月に近づくあなたより三十センチ小さい私

埼玉県春日部市

藤澤 由紀

選者賞・小島なお選 題詠「歩」二首

薄紅の蕾ふくらむ樹々の下 仕立てし喪服を小脇に歩む

東京都中央区 佐藤 直大

バツシユのかかとを折って踏み歩く君は今年も大学浪人

山口県光市 松本 進

選者賞・小島なお選 自由題 二首

記念樹のアオダモの木の数本がバツトとなるべく冬日浴びをり

群馬県高崎市 佐藤 香林

「東芝」を「東乏」と書く同僚に指摘できずに離れ離れに

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

入選 題詠「歩」二十首

どれほどの歩数進めし母よ母よ黄泉路は西に果てなきと聞く

山口県宇部市 藤井 重行

わが歩みに添ひてつきくる秋アカネ野道ゆきつつとなめ増しゆく

島根県出雲市 金山 黎子

歩に詰まり笑ふふたりの縁がはの戻りて来たれこの夏までに

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

軌道工きどうこうかわるがわるに工具持ち枕木歩く強き風の日

神奈川県藤沢市 近藤 千壽

鐘を撞き尼僧は二歩を後退り夕闇ゆらす白き足もと

群馬県みなかみ町 高橋 操

露を抱きひんやり重き初茸の隣を蛇の静かに歩む

秋田県秋田市 加賀谷 実

踵かかとより踏み出す一步もた黙もたふかき弓道場の床に移らふ

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

ふと思ふ昔の教師の「一步前！」サービスエリアで用を足しつつ

愛媛県新居浜市 大賀 康男

パソコンを打つその指のやわからかに放るどんぐり兎と歩く日は

群馬県渋川市 忽滑谷三枝子

真夜覚める犬に付き添う外歩き月の光が毛並みを照らす

京都府舞鶴市 新谷 洋子

かめ虫が畳の上を歩き来る待つてください 食事中です

群馬県みなかみ町 本多 義二

吾と歩み合わせおりたる白雲は田んぼの苗に影してゆけり

静岡県浜松市 大庭 拓郎

歩^{あるき}神憑きてさすらふ牧水にあくがれわれも今日は旅ゆく

愛知県知立市 星原 風堂

同窓の仲間と語らひ歩み出す今宵の宿は雪のみなかみ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

大きめの君がシヤツ着て今日もまたあの畑この畑ひとりの歩幅

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

人類の二足歩行の定まりて言の葉生まれ詩歌を生みぬ

埼玉県さいたま市 前田 明利

朝起きて寒さ感じる部屋の中歩いて来るよ雪だるまさん

群馬県沼田市 一 花

肩並べ歩いた道は記憶してくれただろうか君の足跡

群馬県沼田市 桑原 環世

延齡草^{えんれいそう}亡^{つまめ}き夫愛^{つまめ}でし小さき花一步近づき咲き続けよと

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

友がいう靴擦れ見せて吟味して選んだのにねまるで人生

群馬県片品村 金子 美由紀

入選 自由題 二十首

眼前の畑一面霜白く拉致されし如月残りけり

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

健康本ひらきみている書店内 バイトの孫の見える位置なり

京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子

マスキングテープの端に文通をはじめた頃のと きめきがある

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

コロナ禍のアルコールは手を洗うもの旅を忘れし鳥としたしむ

秋田県大仙市 鈴木 仁

百日草今年も咲きて庭いつぱい去年の花の二世に会ひぬ

群馬県みなかみ町 林 恵美子

入道雲散りて鯖雲鰯雲又広がりて秋の長雨

群馬県みなかみ町 中島 早苗

翳りさす包丁片手に澄む空を取り籠めるまで砥石を研^{みが}く

群馬県伊勢崎市 野口 弘

木枯らしの街帰りきてパソコンの開く画面の青き紫陽花

群馬県高崎市 佐藤 真理子

廃校の庭木に残る鳥巢箱時雨に打たれ冬に入りゆく

群馬県みなかみ町 木村 初枝

小春日に孫のようなる店員はやり方見守るセルフの給油

岡山県新見市 浅井 和枝

石仏の二人は永遠に抱き合えり枯草の中冬陽の温し

群馬県みなかみ町 増田 津恵

ありがとうございますと礼を言い別れられたら一番いいね

兵庫県神戸市 西塚 洋子

亡き妻の繕つくろいおきしメリヤスば肌にやさしく温もりてくる

群馬県高山村 割田 良次

短冊の子らの願いの星祭今どの辺り銀河の川の

東京都足立区 佐藤 春夫

夜明け前稲わらを焼く遠き火に働く人影小さく浮ぶ

香川県丸亀市 寒川 靖子

斜に構え「お先真暗にごさんすよ」
牧水嘆く啄木の部屋

岩手県盛岡市 森 義真

一周忌の読経に曾孫泣き出せばあやす亡母の声聞こえるような

岐阜県飛騨市 横山 美保子

舗装路のさくら模様マンホールめぐる蝶らが鬼あそびする

東京都世田谷区 高橋 登喜

別の世に離りし夫の寒がりに今朝は持ちゆく熱き缶珈琲

神奈川県座間市 蓮見 孝子

いつしかに伝言板の消えし駅みな俯いて叩く指文字

北海道札幌市 鎌田 誠

高校生以下の部 入賞・入選作品

高校生以下の部 投稿者内訳

学校名	投稿者数
群馬県太田市立木崎中学校	73 人
埼玉県所沢市立小手指中学校	1 人
群馬県みなかみ町立月夜野中学校	90 人
山口県光市立光井小学校	1 人
山口県光市立光井中学校	3 人
群馬県みなかみ町立水上中学校	46 人
愛知県立旭丘高等学校	1 人
群馬県立沼田高等学校	132 人
群馬県立利根実業高等学校	308 人
種類別内訳 題 詠 466 人 / 569 首 自由題 588 人 / 820 首 合 計 1,389 首	655 人

最優秀賞 題詠「歩」一首

幸せは歩いてこなくても僕はその幸せを歩かせてやる

群馬県太田市立木崎中学校

2年

石井

龍太

最優秀賞 自由題 一首

部活中肘笠雨の野球場ベンチで待つ十一人

群馬県みなかみ町立月夜野中学校

2年

小熊 航太朗

優秀賞 題詠「歩」二首

また明日歩道橋に背を向ける逃亡したいまだ見ぬ未来

群馬県立利根実業高等学校 3年 福島 愛 毬

コロナ禍で離れ離れはさびしいよ歩みよりたい心だけでも

群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

優秀賞 自由題 二首

スケジュールまっかに染めた夏季講習インクかたまる 「遊ぶ日」の青

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 野村 麗

帰り道葉の無い木々が並んでる面接試験の合否待つ日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 真那斗

選者賞・伊藤一彦選 題詠「歩」二首

人生でどんな道を歩んでもすべてが正しく間違いはない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 渡邊 桃香

こびとになり学校中を散歩する腰抜けるほど大きいだろう

山口県光市立光井中学校 2年 市川 芽衣

選者賞・伊藤一彦選 自由題 二首

君のつと例えるならば日天子にってんしわたしは君を守る月影

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 廉

今までと違う発表無観客少しさみしく何か新鮮

群馬県太田市立木崎中学校 2年 太田 実里

選者賞・小島なお選 題詠「歩」二首

駒の音響く教室秋雨の歩兵進みて戦い続く

群馬県立沼田高等学校

1年

角田 慎太郎

歩くのが嫌いな君も上を見て雨の中でも真っ赤なもみじ

群馬県立利根実業高等学校

2年

井口 玲桜

選者賞・小島なお選 自由題 二首

箱に住む窓の外を眺める魚三年たてば消える雲かな

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

戻れないみんなと過したあの時間行けたら行くよまた会えるから

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

入選題詠「歩」二十首

怖がりな僕の手つなぎ散歩するおどかす君はまるで小悪魔

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 愛花

帰り道並んで歩いた小さな足私のクロはどこにいったか

群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

しよぎの歩前だけに進む奴だけど色々やくだつしよじきな奴

群馬県太田市立木崎中学校 2年 嶋田 洸

太陽と仲良くなるため歩行虫は飛べない羽を光らせている

山口県光市立光井小学校 5年 横道 玄

友達といっしょに歩いたこの道は大人になれば小さなかから

群馬県太田市立木崎中学校 2年 櫻井 侑来

まぶしさに見上げてみれば青空の一人で歩く家までの道

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年

小松 湊望

先生に呼び出しくらう昼休み階段すぎる一歩が重い

群馬県立沼田高等学校 1年

鈴木 勘太

秋の夜寒さ厳しい帰宅道歩きながらも英単語帳

群馬県立沼田高等学校 1年

遠藤 寛大

夏休み最後の夜に思い出す歩く音とふうりんの音

群馬県立沼田高等学校 1年

角田 唯斗

リード付け早く歩けと君の目が朱を反射し鳴る五時の鐘

群馬県立利根実業高等学校 1年

鈴木 溜奈

ハードルの歩幅合わせが難しい何度やっても後二歩減らない

群馬県立利根実業高等学校 3年

佐藤 涼風

バイバイと手を振り上げる歩道橋下る頃にも声が響いて

群馬県立利根実業高等学校 3年

芳野 成海

木漏れ日の差し込む小道歩きたび好きになってく我が古里よ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年

山本 咲希

いつのまに背をこしそうな妹の歩む姿に少しさびしい

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年

加藤 珠美

秋の夜外を歩けば聞こえるよ昆虫たちの心の嘆き

群馬県立沼田高等学校 1年

元 宿 響

妹のつきそいでいったパン屋さんやっていなくてとぼとぼ歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

帰り道歩みをとめて空見ればきれいな虹が青を切る

群馬県立利根実業高等学校 1年 林 歩 未

「寒い寒い」スカートはいて歩く道こんな青春今しかできない

群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 月華

歩道橋最後の一段飛び降りて広がる夕やけ弾む心

群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

「私のことほんとに好き？」不安気な君に合わせてゆっくり歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

入選 自由題 二十首

距離間の難しい日々ウイルスと人との距離は類似している

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 拓実

みなかみの自然はすごいきれいです青みが増した空気とうまさ

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

待ち望んだかには売り切れ悲しいが帰りに赤い月見て喜ぶ

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 綾華

身が入^しみて口から湯気を吹き出すと冬の手紙が山から届く

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

スイカ食べ麦茶飲んでまた食べるひまな一日白紙の予定

群馬県太田市立木崎中学校 2年 早川 昇吾

授業中集中していると聞こえてくる他のクラスの歌っている声

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年

長谷川 結菜

長距離走先生厚着ぼく薄着速く走れと厚着で言うな

群馬県立沼田高等学校 1年

萩原 心輝

登る坂振り向き見ればそこにある流れる利根川夏の走り込み

群馬県立沼田高等学校 1年

吉野 亮

積みあがる悩みと雪のおもさからしたくもなるよ現実逃避

群馬県立利根実業高等学校 1年

郷原 涼輝

校庭の木の葉が散っていくように過ぎ去っていく大切な日々

群馬県立利根実業高等学校 3年

小倉 楓喬

日が入る窓に二人で寄りかかる小さな事が頭に残る

群馬県立利根実業高等学校 3年

津久井 陸翔

人生の主役は僕のはずなのに今の自分はハリボテの森

群馬県立利根実業高等学校 3年

笛木 捺生

短歌のとき思いつかない日常はなんでこんなにつまらないのか

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年

ミックガワン太陽

うちの猫子育てつばめを捕まえて食べずにそのまま置いて行く

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年

原澤 彩太

霧雨にうたれて光る水芭蕉孤独の一輪雨ニモマケズ

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年

高橋 昌稔

ほぼ毎日付き合っている白い布取れる日はいつ来るのだろうか

群馬県立沼田高等学校 1年

五十嵐 優翔

テスト前今回こそと思うけどひらいた脳トの中はからっぽ

群馬県立沼田高等学校 1年

平井 俊輔

小三の弟の話難しい宇宙にハングル高一分からず

群馬県立利根実業高等学校 1年

齋藤 舞

電話ごし月が綺麗と僕は言う無邪気な君に届くはずもなく

群馬県立利根実業高等学校 1年

井上 結愛

帰り道初めてつないだあなたの手誰ともちがう温もりがある

群馬県立利根実業高等学校 3年

石坂 英大

入賞作品講評

◆ 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、
迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日
向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看
護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水
の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年（1986）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの
手伝いをしていくうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学
中から日経花壇に投稿し、2004年に最年少で角川短歌賞受賞。
2016・2020年度「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同
人誌「coco」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。
歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。

最優秀賞 一般の部・題詠「歩」

小夜中の横断歩道の縞模様わたしの恋の幕引きをする

山口県光市 瀬戸内 光

あきらめることのできない恋心を場面も彷彿とさせて見事に歌っている。横断歩道の縞模様を渡り歩きながら、決して恋の幕引きはさせないぞという心が清々しい。

最優秀賞 一般の部・自由題

母さんは忘れていいよ思ひ出は私が全部覚えているから

秋田県秋田市 蓬田 真弓

おそらく認知症のお母さんだろう。介護する方は大変だが、娘である作者は実に優しい。「思ひ出は私が全部覚えているから」と。話し言葉の文体が成功している。

飛行機の青い時間の輪郭に夏の体が歩みをとめる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

時速約千キロで上空を飛んでゆく飛行機は、過ぎてゆくへいまの象徴だ。私、というよりも、私の体のなかにあるこれまでの、これからの夏が時間を見あげている。

物置の埃かぶった歩行器にあの日食べてたケチャップのあと

群馬県みなかみ町 大山 智也

育児の歌でも、挽歌でもいい。時間は過ぎてしまっって初めて目に見えるものになる。乾いたケチャップの跡は、手に触れるとざらつきながら甘く酸っぱい感傷を呼ぶ。

多すぎる取引先の「田村さん」名前と地名で呼び分けてみる

群馬県みなかみ町 篠原 香代

幾度か群馬県を私も訪ねるうちに何人もの「田村さん」と知り合いになったので共感し納得した歌である。初句の「多すぎる」はユーモア。土地に対する愛情が快い。

過疎と過疎つなぐ隘路に忽然と大佐礼隧道とふ空気柱

愛媛県松山市 宇和上 正

「隘路」は狭い通り道。「隧道」はトンネル。「空気柱」はトンネルのなかの空気のことと思う。

効果的な「忽然と」の表現を含め漢字の多用が緊張美を生んでいる。

さざ波のごと昔話を語る母生きてきし歩み吾に伝へる

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

昔話をよくしてくれる母であり、その話しにしっかり耳を傾ける作者なのだ。「さざ波のごと」の表現がポイントの歌である。何度でも繰り返し昔話しをする母。

生まれし日赤飯持ちて吹雪くなか一里歩けりと祖母が語りぬ

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

「生まれし日」の主語が省略されているが、当然作者だ。孫の誕生の嬉しさが「赤飯持ちて吹雪くなか一里」の具体的表現に見事に出ている。祖母を偲ぶ歌である。

選者賞・伊藤一彦選 一般の部・自由題 二首

堂々と化粧落すか人前で二ツの耳持つ上越の岳^{やま}

群馬県みなかみ町 野 澤 武

「二つの耳もつ上越の岳」と言えばもちろん谷川岳。上の句がユニークである。季節が変わり雪の消えない谷川岳を歌っているのだが、「堂々と」「人前で」が面白い。

手を伸ばし月に近づくあなたより三十センチ小さい私

埼玉県春日部市 藤 澤 由 紀

恋人同士で月夜を歩いている歌と読んだ。「手を伸ばし月に近づく」の動作の表現がいい。

「三十センチ小さい」の三十センチの具体性も生きている。ピュアな恋歌。

選者賞・小島なお選 一般の部・題詠「歩」二首

薄紅の蕾ふくらむ樹々の下 仕立てし喪服を小脇に歩む

東京都中央区 佐藤 直大

人事とは関わりなく自然は季節をゆるやかに漕ぎ出す。仕立てたばかりの喪服の悲しいあたらしき。それを着ることになる春の日が静かに、穏やかにやってくる。

バツシユのかかとを折って踏み歩く君は今年も大学浪人

山口県光市 松 本 進

バスケットシューズをだらしなく履く君。去年に引き続き浪人生の君。そして、そんな君の踵や、「今年も」と言いながら、去年から君を愛しく見守っている私。

記念樹のアオダモの木の数本がバットとなるべく冬日浴びをり

群馬県高崎市 佐藤 香林

いずれ野球のバットになる木。その運命を木は知っているのかどうか。いま木のなかに注がれる冬の日差しや私のまなざしは、バットになってもきつと消えない。

「東芝」を「東乏」と書く同僚に指摘できずに離れ離れに

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

友だちだったら指摘したかもしれない。同僚ならではの人間関係の機微。いまもその人は「東乏」と書き続けているのだろうか。なんとなくそうであってほしい。

最優秀賞 高校生以下の部・題詠「歩」

幸せは歩いてこないでも僕はその幸せを歩かせてやる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 石井 龍太

365歩のマーチは「歩いてゆく」自分の唄だった。三十年後、今度は幸せを「歩かせてやる」短歌になった。幸せとの距離は、時代や人の数だけあっていい。

最優秀賞 高校生以下の部・自由題

部活中肘笠雨の野球場ベンチで待つ十一人

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小熊 航太朗

作者が「肘笠雨」の美しい言葉を知っているのにまず感心した。肘を笠がわりにする突然の雨のことだ。「十一人」もいい。みんな賢く、野球の得意な仲良し十一人。

優秀賞 高校生以下の部・題詠「歩」二首

また明日歩道橋に背を向ける逃亡したいまだ見ぬ未来

群馬県立利根実業高等学校 3年 福島 愛 毬

明日を約束する言葉。口にするのはたやすいけれど。未来は明るいななんて無責任な他者の言葉だ。「逃亡したい」。願望は叶わないからこそ切実なひかりを放つ。

コロナ禍で離れ離れはさびしいよ歩みよりいたい心だけでも

群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

コロナ禍は若い世代の生活にも大きな影響を与えている。若いとは集まって語り、騒ぐことなのに。下の句の「歩みよりいたい心だけでも」は切実な叫びの声である。

優秀賞 高校生以下の部・自由題 二首

スケジュールまっかに染めた夏季講習インクかたまる「遊ぶ日」の青

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 野村 麗

勉強の予定は赤、遊びの予定は青のボールペンで書き込む。受験がだんだん近づくにつれて青は浸食されて、ついには赤一色に。青を使う日のための今は赤の時間。

帰り道葉の無い木々が並んでる面接試験の合否待つ日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 真那斗

寒々しく並んでいる木々は、作者の心の風景とリンクしているよう。寄る辺のない、心もとない内面だからこそ、いつもの帰り道とあたらしく出合うことができた。

選者賞・伊藤一彦選 高校生以下の部・題詠「歩」 二首

人生でどんな道を歩んでもすべてが正しく間違いはない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 渡邊 桃香

作者は中学二年生。これからの進路を含め、選択に迷うばかりの時期だ。この作者のアフオリズム（箴言^{しんげん}）のような呟きは自信に満ちている。「間違いはない」のだ。

こびとになり学校中を散歩する腰抜けるほど大きいだろう

山口県光市立光井中学校 2年 市川 芽衣

ふとんの中で見た夢だろう。夢のなかで「こびと」になっているというのが面白い。学校の大きさをかみしめている。市川さん、今度は巨人になった夢はどうですか。

選者賞・伊藤一彦選 高校生以下の部・自由題 二首

君のつと例えるならば日天子わたしは君を守る月影^{にってんし}

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 廉

場面は描かれていないが、あれこれ想像できて楽しい。君は例えば山の端からのつと出て地上を照らす太陽。「日天子」「月影」の語に古代のロマンスがただよう。

今までと違う発表無観客少しさみしく何か新鮮

群馬県太田市立木崎中学校 2年 太田 実里

コロナ禍では、学校での、また学外での発表も無観客となったが、そのことを「さみし」
「さみし」だけでなく、同時に「新鮮」と捉えた考え方がすばらしい。ポジティブだ。

選者賞・小島なお選 高校生以下の部・題詠「歩」二首

駒の音響く教室秋雨の歩兵進みて戦い続く

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 慎太郎

将棋の駒を打つ音と雨音だけがひんやりと満ちる教室。地道に進む「歩」の駒のことを詠いながら、過去の未来の戦争のイメージを引き寄せる不穏さが隠されている。

歩くのが嫌いな君も上を見て雨の中でも真っ赤なもみじ

群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 玲桜

君は歩くのが嫌いで、しかも雨が降ってきて。シチュエーションはだいなしだ。それでも真っ赤なもみじの美しさが、だいなしすら思い出深いものにしてくれる。

選者賞・小島なお選 高校生以下の部・自由題 二首

箱に住む窓の外を眺める魚三年たてば消える雲かな

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

水槽のなかの魚と教室のなかの私。閉じ込められているような気分で眺める外の世界。けれど、この守られている不自由も三年経てば跡形もなく消えてしまう。

戻れないみんなと過したあの時間行けたら行くよまた会えるから

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

「戻れない」けれど、いつだってこの三年間に戻れるような気がしている。「また会える」確信がちゃんとあるから、「絶対行く」なんて必死の約束はいらない。

一般の部【題詠】「歩」作品集

212人 468首
投稿順に掲載

額中の歩兵の父が大戦を語らず逝きしかの夏の来る

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

雪道の歩幅は小さくゆけといふ祖母は越後の生まれでありし

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

歩行器を離れし幼なのたんこぶをここから育つと人の言ひたり

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

街をゆく人みな競歩の強ものかわが山径にけものが走る

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

歩に詰まり笑ふふたりの縁がはの戻りて来たれこの夏までに

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

がむしやらに歩み続けた我が道の残る足跡どこにありしや

群馬県みなかみ町 番場 正夫

登校の子等は歩みも重苦し下校と為れば足も翔けれり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

我が道を行くと見え切り踏みだした一步懐かし半世紀前

群馬県みなかみ町 番場 正夫

遊びすぎ雑に草取る日暮時夕餉近しと歩を速めり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

親たちと山の畑へ歩きたる昔の道は見る影もなし

群馬県みなかみ町 番場 正夫

吾と歩み合わせおりたる白雲は田んぼの苗に影してゆけり

静岡県浜松市 大庭 拓郎

Yシャツに歩み出でゆく原の道まつわるものは風に放たん

静岡県浜松市 大庭 拓郎

海亀の歩める浜のしずけさに淡くよりそう昼顔の花

静岡県浜松市 大庭 拓郎

牧水は歩を止め若き葉の陰で眼をそらさず私を見ている

群馬県高崎市 齋藤 宏子

山門の阿吽の像は歩まねどすべて知り得てすべて見通す

群馬県高崎市 齋藤 宏子

こよなくと言ひ訳しては歩を進むははと故郷の一字名とし

群馬県高崎市 齋藤 宏子

改札を抜け来る人のみなマスク付けし歩みの流れの中へ

秋田県大仙市 鈴木 仁

コロナうつ日々の不安を抱えつつコロナに負けず歩み生きてく

千葉県千葉市 うめさわ かよこ

初孫や一升餅を持てあまし立てど歩めず泣きの一歳

北海道札幌市 鎌田 誠

委託せし機械田植の待ちいつつ朝より三たび水見て歩く

岐阜県飛騨市 野村 訓啓

散歩するコースと距離は日々変える気分よければ牧水になる

宮崎県日向市 黒木 直行

ロシア貴族の果てとぞ羅紗布地売り歩く異人見かけき戦前の町

大分県大分市 羽田野 とみ

疎開の荷母と担ひて山径を駆へ歩みき敗戦の暮

大分県大分市 羽田野 とみ

「歩調とれ」の号令いまも聞こえる戦時航空廠たりしわが町

大分県大分市 羽田野 とみ

花は咲き鳥の声聞く遊歩道瀬音さややく歌ごころ湧く

岐阜県中津川市 古井 富貴子

競歩にて関東大会出でし子の結婚式に参加頼まれり

茨城県結城市 湯本 康二

歩くのはもうイヤイヤと駄々こねてトイプードルは我が腕の中

長野県箕輪町 市川 光男

山坂を越えてなだらか散歩道老いの夫婦の明日が始まる

大阪府大阪市 後藤 憲之

躓かぬ一步一步を人生訓老いの証に妻の手を取り

大阪府大阪市 後藤 憲之

上り坂突っ張る脚の馬ありき後押されての羊の歩み

群馬県高崎市 秋山 充利

腰痛の杖を頼りに歩く身は残念無念老いの悲しき

三重県亀山市 岩谷 隆司

手を添えて歩いた孫が早や十歳おいでじいちゃん走りて呼びぬ

三重県亀山市 岩谷 隆司

眠むつても生命が明日へ歩いてく死と会う日まで歩き続ける

三重県亀山市 岩谷 隆司

歩^{あるき}神憑^{あまがみ}きてさすらふ牧水にあくがれわれも今日は旅ゆく

愛知県知立市 星原 風堂

はっとして齢を思う知らず識らず妻の歩幅で歩く自分に

埼玉県所沢市 若山 巖

ワクチンの予約に並ぶ人の歩は間隔あけて黙々と進む

徳島県阿南市 坂東 典子

腰痛で医者と言葉を受け入れて1歩すすんで2歩さがる妻

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

澄んだ空微かに見えるトマの耳大股小股歩く堤防

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

汗拭いて歩く途中に水車小屋耳を澄ませば初夏の涼やか

群馬県みなかみ町 田中 春枝

小さくも横に並んで整列し坂田三吉一步前出る

群馬県みなかみ町 本多 義二

歩のごとく一つずつしか進めぬどいつか「と金」になるを夢見む

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

今宵より四十九日を歩き行く祖父の脚絆は結び目縦に

群馬県みなかみ町 篠原 香代

願わくは三步進んで二歩下がる一步の重さ五分とする

群馬県みなかみ町 大山 智也

歩の力進んで成つて強さ知る盤上の上詰む助手と金

群馬県みなかみ町 篠原 忠

雨の中歩いて帰る子供らを気にしてスピード落として進む

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

手をつなぎ園に向かつて歩いたね今は車で3分で着く

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

リハビリは1歩進んでまた戻るそれでもいつか普通の日々を

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

飛行機の青い時間の輪郭に夏の体が歩みをとめる

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

子の手とり「あんよはじようず」ママ小さく後ろへ歩くポッポ公園

東京都足立区 鷺沼 あかね

吾に合はせ歩みゆく夫よそれぞれに古道は楽し「王子」で会はむ

兵庫県洲本市 大村 博子

歩くことに生きる凹凸^{あふとつ}託すのと競歩の人の歩み続ける

兵庫県洲本市 大村 博子

一町を百五十八歩として歩き日本全図を伊能忠敬

東京都世田谷区 野上 卓

水上の足湯に脛のほぐれば歩きはじめる川音のまま

東京都世田谷区 野上 卓

古希過ぎて心臓開き弁替えて歩む喜び一歳の子に

北海道札幌市 鎌田 誠

カート押し散歩に出れば「あら猫」と覗き込む人たちまち笑顔

群馬県みなかみ町 奥村 清美

霧の中鈴付け歩めば椋鳥は「ぎやあ」と騒ぎて仲間連れ去る

群馬県みなかみ町 奥村 清美

今一步に発車のベルの待ったなし足はもつれて踊り場に止む

愛知県豊橋市 篠田 武子

酸っぱさのわずかに残る梅干の種捨てられず散歩の続く

愛知県豊橋市 篠田 武子

わらしべを拾い長者になる話マスクばかりが目につく歩道

愛知県豊橋市 篠田 武子

手をとりにて祖母の歩幅で医者へ行く二十歳の吾の青春ありき

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

さざ波のごと昔話しを語る母生きてきし歩み吾に伝える

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

官庁の広いロビーを闊歩する役人よなぜかくも急ぐや

岡山県和気町 行正 健志

初詣で歩みの遅きわれなれば小五の孫は手を引きくれたり

群馬県沼田市 今井 栄一

出会いしはあの歩道橋原宿の撤去なりたる夫との記憶

三重県伊勢市 伊藤 理恵

腰を曲げ後ろ手見慣るる隣人の行なる散歩雨のまにまに

群馬県沼田市 田村 鶴江

百歳を祝ふ族に応ふ母歩ける幸せ親に貰ふと

群馬県沼田市 田村 鶴江

山歩なる雅号の伯父の句の一つモンロー歩きする鴉とぞ

群馬県沼田市 田村 鶴江

颯爽と両杖あやつり歩み行く信号待ちに友のまぶしく

群馬県沼田市 田村 鶴江

少女の日・母になりし日・今は婆 歩めば速き女の流転

岐阜県中津川市 吉田 順代

ほとぼしる歩去りゆく待ちいつ散らんいつとちる愛の嵐ぞ

群馬県伊勢崎市 白根 あおい

いつナイト死にゆくほかげ歩ぶと白根あおいよ砂きゆうのまれぬ

群馬県伊勢崎市 白根 あおい

二人ゆく稀な外出それぞれの歩もて北限の雪樁へと

秋田県湯沢市 村田 磨理子

先生に送られて帰る一年生黄色い帽子のかばんが歩く

岐阜県岐阜市 大栗 紀美子

妻を亡くしぽつねんと立つ人見えて夫と散歩の道を変えたり

岐阜県岐阜市 大栗 紀美子

二千歩でゆける郵便ポストまで葉書を入れにゆつくり歩く

兵庫県神戸市 西塚 洋子

コロナ禍を日々漫然と過ごす中一念発起志向の一步

群馬県沼田市 美 泉

人間とコロナの戦い極まりて救世主ワクチン歩み出したり

東京都東村山市 浦壁 あけみ

小六が我の手を取り誘導す足弱きばあばに歩調合わせて

東京都東村山市 浦壁 あけみ

ワクチンが牛歩のごとく進みゆくオリンピックの二ヶ月前を

東京都東村山市 浦壁 あけみ

さあ行くぞ鞋を止めて歩みだす馬鈴薯植うると日がな畑打つ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

病み上がり十歩歩きて一休み日頃の道が坂道に見ゆ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

同窓の仲間と語らひ歩み出す今宵の宿は雪のみなかみ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

入園時泣く泣く歩みし保育園今園庭を駆けて行く孫娘

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

手をつなぎ保育園児の散歩道泣く子笑ふ子跳ねる子赤る居る

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

御堀跡ぞろぞろ歩く猿の群れ謙信候も眺めたるやも

群馬県みなかみ町 奥村 清美

雨の日は歩く人無き散歩道マスクはづして空気独り占め

群馬県みなかみ町 奥村 清美

この道を歩けなくなる日も来ると母に付添ひ黙して歩む

群馬県みなかみ町 奥村 清美

歩けなくなる前歩けと足腰をかばひて今日も誘ひあひたり

山形県鶴岡市 大沼 二三枝

牧水の歩みし苦坂峠越ゆ顕彰会員雨に消えゆき

岡山県新見市 小田 遵子

知らぬ間に一生懸命歩いてるのんびり行かうと決めてたはずが

宮城県仙台市 角田 正雄

歌友は公民館へ歩いて来たど九十一歳満面の笑顔

茨城県常総市 太田 きみ子

歩を止めて危険な原発かわるもの人の世の生活とり戻したき

茨城県常総市 太田 きみ子

貧しくも歩み続けし母の背にひねくれ者の吾目を背く

茨城県常総市 太田 きみ子

どれほどの歩数進めし母よ母よ黄泉路は西に果てなきと聞く

山口県宇部市 藤井 重行

夫婦づれ朝夕の散歩は欠かさずに杖つく夫の手を取り合つて

福井県小浜市 大江 青流

朝露は昨夜の雨もキラキラと始まる今日と朝日に歩く

群馬県みなかみ町 武田 裕希子

昼日中浴衣が街を闊歩する日が来ることを昭和は知らない

青森県青森市 高橋 圭子

白緋の君と歩みし畑の道甲斐の山なみ遠く仰ぎて

奈良県奈良市 大森 富士子

赤紙の複製コピー手に歩みとめて署名す八月六日

群馬県藤岡市 清水 静子

ワクチンは五輪より大事何してる歩みののろい政府の出方

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

人生の歩みも早く年かさね世の影踏みとかわらぬくらし

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

行きづまりあちこち歩む聖火人オリンピックはコロナ心配

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

がまんつき不用不急もままならず若ものは歩む意のまま気まま

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

真夏日に歩く道にはコロナ禍何んで始めた政治家たちは

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

八十七歳^{はちじゅうなな}起き抜け歩めば足腰鳴る医師は「動くのみ」其の物言へど

富山県高岡市 古澤 澄子

題詠「歩」を投稿歌、機に若き^{ひび}日日の楽しき思い出よみがえりけり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

尾瀬ヶ原リュック背負いし歩みたる友3人の夏物語

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

軽井沢サイクリングし歩みたり女子高3人白樺に遊ぶ

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

薬大友と抹茶ソフトを頬張り歩みし武蔵小山商店街

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

駅名に惹^ひかれ下車したる金沢八景歌い歩みし初夏に友と

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

海辺を歩むフレアースカートの我を「絵になつてるよ」と誉めてくれし友

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

手作りの水玉もようのワンピースで友と歩みし山下公園

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

はにかみ屋の度胸つけたしとフリルワンピースの水着で歩みしミスコンステージ

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

生まじめな、我と山陰の青年医師と、語り歩みぬ六本木通り

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

元氣いっぱい赤い首輪のコロちゃん^{さかいこうえん}と歩み、走りし、境公園

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

足腰はまだ大丈夫一万歩日課のウォーキング山坂越えて

群馬県みなかみ町 小林 博子

運動不足解消せむと通勤に往復一万歩を越えつつ歩く

群馬県みなかみ町 小林 博子

リハビリの効果を見せて杖持たず一步一步と甥は歩きぬ

群馬県みなかみ町 小林 博子

車ならばほんの一刻の慣れし道も大雪の日は一時間歩く

群馬県みなかみ町 小林 博子

離り住む息子来たりて稲刈機操り二反歩の稲刈終へぬ

群馬県みなかみ町 小林 博子

帰省する誕生すぎた孫娘吾目の前で一步が始まる

群馬県前橋市 長谷川 陽子

ミイーン、ミン、ミン、ミイーン、に自づと合わす歩巾の軽き

千葉県船橋市 川崎 富子

ケン、ケン、パッア!と歩を進め来る老女先縄文笛の毅さんの笑み

千葉県船橋市 川崎 富子

歩き出すも過労で三途の折り返し藻掻く意気すら病に吞まるる

群馬県みなかみ町 どりーメキ

すまないと思うけれども人は人レールの上は歩きにくくて

群馬県みなかみ町 どりーメキ

さびぬれた街は宵の口鬼となりぬらり九十九と練り歩けたら

群馬県みなかみ町 どりーメキ

胸ちぎり脳震わせる葛藤も七歩過ぎれば思い出に墮つ

群馬県みなかみ町 どりーメキ

二度三度死んだ程度で終われるか「叛旗を興す」我は歩行虫^{ごみむし}

群馬県みなかみ町 どりーメキ

足の裏を天上に見せて赤ちゃんはハイハイを腹這い全身で歩む

大分県竹田市 佐藤 政俊

口笛を河鹿の声に倣ひつつ夫と歩みし四万川の径

群馬県高崎市 神澤 静枝

大きめの君がシャツ着て今日もまたあの畑この畑ひとりの歩幅

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

歩も軽くスキップ帰り行く少女明日の遊びに心踊らせ

群馬県みなかみ町 林 いくじ

子供らのさざめくごとき水音と共に歩みぬ里の初夏

群馬県榛東村 川本 福江

日の入りと散歩の競争する道を曲がれば辺りに味噌の香のする

群馬県榛東村 川本 福江

肩よりも高々積まれた荷を背負ふ歩荷さんの汗木道に滴る

群馬県沼田市 蠟山 恵子

都会から来た子らの歩いそいそこの地の魅力あらためて問う

群馬県昭和村 加藤 南風

イベントで挨拶前に吹く「さんぽ」子供静かに一步踏みだし

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

詰め将棋歩というものはと父の言ういつか私も金に成りたい

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

諦めず大黒天の神社まで石段登り最後の一步

群馬県みなかみ町 田中 春枝

窓の下一直線に歩く蟻飛行機雲が遠のいていく

群馬県みなかみ町 本多 義二

田水入れひと休みする傍にのろろ歩む蟻蛙居り

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

晩蟬とうつむく向日葵うろこ雲物悲しさは秋への一步

群馬県みなかみ町 篠原 香代

塀の上すいすい歩く白いネコ猫じゃらしも重力も無視

群馬県みなかみ町 大山 智也

歩を使い上達しつつ深く知る名人降す盤上のうえ

群馬県みなかみ町 篠原 忠

意識して大股歩きしてみるがいつものごとく二日で終わる

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

心が黄一度止まって考えて青になったら歩き出そうか

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

一步、二歩、三四と数え抱き上げたその子は今年十才になる

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

樹の下に歩みをとめて眼を閉じる心はしばし風にあずけて

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

瓦礫場で滴る汗に五色沼必ず見ると歩みすすめる

群馬県片品村 金子 美由紀

米寿とふ人生行路の一里塚ウイルスコロナの渦中を歩む

群馬県みなかみ町 林 恵美子

忘れては何度も歩く廊下道これも運動思ふ気休め

群馬県みなかみ町 林 恵美子

大声で唄ひながらの散歩道稲穂のゆるる田の中通り

群馬県みなかみ町 林 恵美子

万歩計の記録は二万を越えておりひと日を初夏の尾瀬にゆだねて

群馬県川場村 桑原 謙一

価値の低い駒だからこそ逆転の妙手となりし焦点の歩は

群馬県川場村 桑原 謙一

「ふ」と辞書を引けば漢字は数多あり将棋の駒の名の一つ「歩」は

群馬県川場村 桑原 謙一

車の窓より「歩くのはいいですね！」笑顔のひとつと春の奥入瀬

新潟県新発田市 三浦 ユリコ

幼子は土にまみれていと大き芋を抱えてよたよた歩む

宮崎県宮崎市 熱田 民恵

傘がない歩行途中の通り雨大地を洗う天然シャワー

群馬県みなかみ町 あーる け

梅雨時にのびのび歩くかたつむりでも以外とねはやいんだもん

群馬県みなかみ町 深代 里子

一步出て桑の実赤く輝いてスズメとカラス喜びあいて

群馬県みなかみ町 深代 里子

朝露のてくてく歩きどこまでも空気さわやか風笑いてえ

群馬県みなかみ町 深代 里子

雨もよひ急ぎ歩けば軒先のつばめ賑やか忙しき子育て

群馬県みなかみ町 奥村 清美

猫連れて散歩に出れば睦まじくバナナを植える笑顔に出合ふ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

やうやくに熱気おさまる散歩道秋草ゆれてとんぼの群れ飛ぶ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

父の背に弾みて歩む里道の蛸は夢かあまりになつかし

群馬県みなかみ町 中島 早苗

歩み来し努力と辛苦人間の力無限とパラ選手は教ふ

群馬県みなかみ町 中島 早苗

秋の田の色づき初めし畔道に白鷺ゆるり歩む長き足

群馬県みなかみ町 中島 早苗

血の滲む中村哲氏の歩みさへ消さむと言ふかああアフガンよ

群馬県みなかみ町 中島 早苗

老残とふ言葉を知りぬ実りある道を歩みし人の言ふなり

群馬県みなかみ町 中島 早苗

将棋する歩の扱ひを間違へて王手王手で孫に負けたり

群馬県前橋市 小畑 吉克

軌道工かわるがわるに工具持ち枕木歩く強き風の日

神奈川県藤沢市 近藤 千壽

歩を緩め手櫛で髪を整える君と目が合うショーウィンドウ

茨城県東海村 風森 漣翠

はえば立て、立てば歩めの親心月日流れて我はりハビリ

群馬県みなかみ町 大淵 照雄

せせらぎに交りて透る蟬の声暫し歩を止め緑陰に聴く

群馬県中之条町 中澤 いし

鐘を撞き尼僧は二歩を後退り夕闇ゆらす白き足もと

群馬県みなかみ町 高橋 操

生れし子はホモサピエンス確かなり半年で二歩自力で歩む

群馬県みなかみ町 高橋 操

くづる子を背に夕焼けの広き野を我も子もただ黙し歩みぬ

群馬県みなかみ町 高橋 操

山畑を歩きつつ雉子立ち止まりふた声鳴きて春を告げをり

群馬県みなかみ町 高橋 操

山下り野を渡り行く暮らしなり老いてより知る歩む楽しみ

群馬県みなかみ町 高橋 操

体にメス入れない主義の友もゐる手術六回め九十二歳を歩む

岡山県新見市 井原 志津枝

オリンピックク終はりて日本に帰化をせし青空遠き青年の歩み

岡山県新見市 井原 志津枝

歩道橋渡る人なくポツネット渡る人待つ道路標識

群馬県みなかみ町 野澤 武

- 歩は否だ金も嫌いだ王様だい君にありしか盤出る覚悟
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 歩合かな時給苦しき非正規の体切り売る正規への道
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 繋いだ手ママの一步と私の一步ママのお手手が遠くなる
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 這えば立ち半歩跡み出すその足はその半歩こそ未来をつなぐ
群馬県みなかみ町 野澤 武
- 晴れ間みて庭を歩けば通草はや色づき柚子も葉かげに揺れる
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 這へば立て立てば歩めの親心昔も今も変らずなりき
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 幼子はたちまち歩いて智恵をもつ八十路の吾等物忘れ増す
群馬県みなかみ町 高橋 吟子
- 木槿咲く周回コースを老いわれら競うことなく黙して歩む
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 偶然を装いながら歩みゆく見せてはならぬ老いの恋情
徳島県阿南市 小畑 定弘
- 送り火の先歩みゆく亡き妻の幻の影まぶたにうかぶ
群馬県高山村 割田 良次
- 連れ添いて歩みきたりし妻逝きて卒寿の吾は短歌が道づれ
群馬県高山村 割田 良次
- 連れだちて蛸袋を鳴らしたり亡妻と歩みし山峽の路
群馬県高山村 割田 良次
- 薬より歩行つゞけよと導ける医師の言葉に温もりのあり
群馬県高山村 割田 良次
- 亡き友の手づくりの杖譲りうけ道づれにして卒寿の散歩
群馬県高山村 割田 良次
- 遣唐使歩きけん道我も往く生駒の山のくらがり峠
大阪府堺市 名川 由江
- 熊野路を足取り軽く歩く君背のリュックを我は追ひつつ
大阪府堺市 名川 由江
- いつからか歩幅狭まる両親に合わせつつ行く駅までの道
大阪府摂津市 高橋 好恵
- マスクして静かに歩む旅行者を緑ゆたかに包むわが里
群馬県みなかみ町 細川 のぶ子
- 散歩せば懐かしき香の漂へり梅干す景に唾液出でくる
群馬県高崎市 佐藤 瑞恵
- 歩は停まる中野駅から新宿の焼けビルを見てわが家の跡へ
埼玉県さいたま市 山本 好孝
- その背中見失わぬよう追いかけて君の一步は私の三步よ
埼玉県春日部市 藤澤 由紀
- 歩むこと気にせず生きし過去なれど不自由にして有難さ知る
群馬県みなかみ町 星野 ますみ
- 一歩づつ愚道に勤む過去有りて今の穏やか手の内にあり
群馬県みなかみ町 星野 真一
- 牛のごとゆつくり歩むことなどは望めど出来ぬ社会なりしか
群馬県みなかみ町 星野 祥一
- 歩むるも五体満足授けたる父母のお陰と感謝する日々
群馬県みなかみ町 細谷 龍夫
- 今の世は二足歩行が当りまへ手の自由さを神に感謝す
群馬県みなかみ町 細谷 長寿

今日もまた一步踏み出すリハビリの窓から見えし双耳峰かな

群馬県みなかみ町 西山 好夫

下校児に添いて歩きし悩みごと知らぬゲームの用語次々

群馬県みなかみ町 中村 久夫

まず一步踏み出すことの難しさ慣れぬ付き合いですボランテア

群馬県みなかみ町 平山 武雄

歩の駒に降参したる王駒をじつと見つめて天を仰ぎぬ

群馬県みなかみ町 下城 治

気にもせぬ歩けることの幸せを五体満足父母に感謝す

群馬県みなかみ町 増田 みつ子

小夜中の横断歩道の縞模様わたしの恋の幕引きをする

山口県光市 瀬戸内 光

背の曲がるわれの姿勢を治されて森のほそみち少女と歩く

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

花びらの白きに仄か紅のさす林檎の木の下若めき歩く

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

初めての動く歩道に怯めどもコンサート前に早も昂る

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

背綺麗な行きつ戻りつする姿我の歩みと重ねてみたり

群馬県昭和村 加藤 南風

終業日歩あのみを見せて父親が点数よりも皆勤ほめた

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

ガツガツコツコツパジャマの人も其々歩くここは群大アゼリアの前

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

震えても両手を重ね胸に置き深呼吸して最初の一步

群馬県みなかみ町 田中 春枝

朝日背に歩をゆるめつつ坂道を下りて行けば力沸き立つくだ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

背伸せなばしさくさく歩む人を見し吾も見習ひ背筋伸ばさむ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

リモートで面会ししも五分のみ息のむ君の歩行訓練

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

背の低い傘一列の歩道見た助手席の指示「スピード落として」

群馬県みなかみ町 篠原 香代

最後まで止まることなく少しでも前向き進む歩み遅くも

群馬県みなかみ町 大山 智也

負けてから歩の一手でも覚悟決め名人に勝つ詰めの迫力

群馬県みなかみ町 篠原 忠

坂道を登った先にゴールあり目標見つけ歩み軽やか

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

もみじの手ぎゅっと握って歩いたね園までの道幸せの時

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

テールに掴まり立ちて得意顔次は歩行器ハイハイまだか

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

ねえすこし歩きましょうか葉桜に咲くふりをするひかりに沿って

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

木道で肩に食い込み背負う荷に赤とんぼのせ並んで一步

群馬県片品村 金子 美由紀

十年も「走る」し漢字の塩漬けぬ脚病めるともひたに歩まむ

群馬県伊勢崎市 野口 弘

重たきも歩みを延ばす敬歩路麻痺病む脚で蹴つてみたくて

群馬県伊勢崎市 野口 弘

露を抱きひんやり重き初茸の隣を蛇の静かに歩む

秋田県秋田市 加賀谷 実

太陽に向かいて一步一步行く「急がず来いよ」と大きな朝日

群馬県高崎市 湯浅 慧子

最後まで自力で歩くと意志つよき義母は臥しつづばた足止めず

群馬県前橋市 松下 昭代

予告なく歩けなくなる日の夫に来て歩けぬ十年夫は生きたり

群馬県前橋市 松下 昭代

この足の歩一歩がピークに立たせたり下りて仰ぐ燧ヶ岳の高し

群馬県前橋市 松下 昭代

ひたすらに歩を重ねきて耳双つ「登ったぞう！」と若き日記に

群馬県みなかみ町 林 好一

昭和から平成・令和と歩み来て今終活の歩みのろのろ

群馬県みなかみ町 林 好一

週二度と中高年の山歩き今日三千メートルの頂き歩む

群馬県みなかみ町 林 好一

苔むした合同句碑の二十年里山文化静かに歩みて

群馬県みなかみ町 林 好一

少子化に合併閉校山里は歴史の歩み過疎と消えゆく

群馬県みなかみ町 林 好一

這えば立て立てば歩めと励ますに吾が子地上を一生歩めず

愛知県岡崎市 中村 佐世子

親のあと並んで歩く鴨八羽稲田に生きる術学びおり

愛知県岡崎市 中村 佐世子

再開の「ミス岡崎」のコンテスト振袖の乙女ら花の辺歩む

愛知県岡崎市 中村 佐世子

腎癌の手術を終えて生きている今日も明日も生きてく一歩

東京都足立区 佐藤 春夫

わが家の棚田の茅花白き穂を靡かせぬや畦道歩く

群馬県沼田市 田村 鶴江

機は見えず音轟々と春の空散歩の足を止めて見上げる

群馬県みなかみ町 長浜 利子

リモートで部屋に籠りてキーを打つ娘の歩数百歩にみたぬ

群馬県みなかみ町 長浜 利子

登山家の田中陽希は徒歩のみで三百名山制覇されたり

群馬県みなかみ町 長浜 利子

よちよちと歩き始めたももちゃん是我家の猫をワンワンと呼ぶ

群馬県みなかみ町 長浜 利子

哲学の道を歩めば琵琶湖より引かれし疎水ゆったり流る

群馬県みなかみ町 長浜 利子

をさな児は歩むをおぼえ小犬追ひまろびては立つあを芝あを空

埼玉県さいたま市 前田 明利

落葉つむ岨道歩む歌人の影百年の刻よみがへりくる

埼玉県さいたま市 前田 明利

人類の二足歩行の定まりて言の葉生まれ詩歌を生みぬ

埼玉県さいたま市 前田 明利

草刈りの途中あぜ道歩いたらいつの間にもやら山栗拾い

群馬県みなかみ町 夏 花

坂道を歩くの嫌でしゃがみ込む母に負ぶさり楽ちん気分

群馬県みなかみ町 夏 花

膝痛い季節変わりは歩くとき母の形見の杖を離せず

群馬県みなかみ町 夏 花

薪背負い家族で山を歩いてた子供心にしりとり夢中

群馬県みなかみ町 夏 花

風邪引いて歩いて迎えに来た母のランドセル持つ手は朱かった

群馬県みなかみ町 夏 花

お母さん子育て歩み淋しいなこれから子供楽しみに

群馬県みなかみ町 やまちゃん

朝起きて寒さ感じる部屋の中歩いて来るよ雪だるまさん

群馬県沼田市 一 花

春来たる毎年行くよ蕨採り歩く道のり籠いっぱい

群馬県沼田市 一 花

亡き義母のお陰で出会う嫁さんと歩むと誓う墓石の前で

群馬県沼田市 一 花

町の灯に肩を組みでは闊歩ししかの目を頭たせひとり乾杯

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

七百の歩数で余る集落をわがふるさとに柿の実赤し

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

黄金ごうこんの穂波の上を歩みゆく私の影も腰のまがりて

群馬県高崎市 佐藤 真理子

どこまでも歩けると言う卒寿の姉手押し車とピンクの靴に

群馬県高崎市 佐藤 真理子

引き返すことはしないと決めた道吹きつける風に逆らひ歩く

青森県八戸市 木立 徹

秋空にひつじ雲の連なつて散歩道には落葉かさこそ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

高齢者の仲間入りして歩く道ゴールはまだまだ先にあるらし

群馬県みなかみ町 奥村 清美

踵かかとより踏み出す一步もた黙もたふかき弓道場の床ゆかに移うつらふ

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

躰かたくと歩む後ろ手なつかしき父の遺あとせし古りし地下足袋

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

奥利根の吾あが住む里に一步ぼずつ尾花目立ちて秋深みゆく

群馬県みなかみ町 松井 とし子

姪の子の「命名」書くの任されて妻より一步前ナイナイバ

群馬県昭和村 加藤 南風

さそわれて一步踏み出す人との出合い会って良かった宝が増える

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

雨の中老ゴールデン散歩する真まつ赤なカッパが好きなのかい？

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

読み終えてジグザグ二年積み上げた本は私を進歩させてく

群馬県みなかみ町 田中 春枝

やつあたりした君からの歩み寄り何も言わせず後ろからハグ

群馬県みなかみ町 篠原 香代

物置の埃かぶった歩行器にあの日食べてたケチャップのあと

群馬県みなかみ町 大山 智也

家の車庫忍びで歩き冷静に車をぬすむリレーアタック

群馬県みなかみ町 篠原 忠

靴底をずって歩いてすり減らす昔の自分を見てるみたいだ

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

手をつなぎ君と歩いた三国山今は親子でわいわい登る

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

祭りの日家族で食べた焼きまんじゅう今は懐かし歩行者天国

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

三叉路の月照る道とかげる道そのかげる道を歩みゆきたり

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

コロナ禍を過ごした我の手帳は選べぬ一字歩と停まる

群馬県片品村 金子 美由紀

カート押す妻の後ろをゆつくりと歩むあなたの背が愛しき

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

赤や黄に染まる歩道を行き尽けば怒りも静まり無になるだろう

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

地域バスに揺られて眼科に通院す老いへの歩みを味いながら

岡山県新見市 浅井 和枝

痛むひざいたわり歩む母在し坂の家にはコスモスの咲く

群馬県みなかみ町 狩野 光子

痛む脚目標定めて一步出す十メートルも楽しき道程

香川県丸亀市 寒川 靖子

少国民戦中、戦後を歩みきて平成、令和百歳目指す

群馬県高崎市 熊澤 峻

車停め窓開けマスクし「送ります」と知人言ふなり足引き歩めば

群馬県安中市 新井 八重子

わが歩みに添ひてつきくる秋アカネ野道ゆきつつとなめ増しゆく

島根県出雲市 金山 黎子

朝まだき一人歩けば音もなく白鷺一羽山霧に消ゆ

群馬県沼田市 高倉 嶸風

悔いるなきパラリンピックの歩が進む一曲ごとに別れへの道

群馬県沼田市 高倉 嶸風

吟行会ついて歩けぬ憂いあり試歩の散歩で不安募りぬ

群馬県沼田市 高倉 嶸風

朝散歩栗拾わむと起床する山寒々と木々が波打つ

群馬県沼田市 高倉 嶸風

六十年共に歩きし二世なれば紆余曲折の心が絡む

群馬県沼田市 高倉 嶸風

いざ行かむ学びの道は厳しかば励まし合ひつとも歩まむ

千葉県柏市 中村 弘

父母になき青春を生き戦なき七十六年を歩みきたれり

東京都町田市 谷川 治

今年まためつきり減りし雀どちしばし歩をぬ稲田眺むる

東京都町田市 谷川 治

一升餅背負ひし孫は万緑のなか踏んばりて三步あゆめり

東京都町田市 谷川 治

ケアマネの「治る」の言葉信じつつ痛みに耐えて歩み始めり

群馬県太田市 白石 政江

快方に成りたき思ひひとすじに一步一步を踏み出しし日あり

群馬県太田市 白石 政江

ふと思ふ昔の教師の「一步前！」サービスエリアで用を足しつつ

愛媛県新居浜市 大賀 康男

藪山に廃鉱山の問歩探す古人の聲を頼りに

愛媛県新居浜市 大賀 康男

歩み止めふと振り返る我が道を眺めわたせば啄木賢治

岩手県盛岡市 森 義真

草紅葉燃ゆ谷川岳へ靴紐絞め早朝一步踏み出したる過去

群馬県みなかみ町 増田 津恵

散歩する紅葉の路は愛犬の逝きて八年一葉を拾ふ

群馬県みなかみ町 増田 津恵

大峰山の山開き「歩け」の運動蔵一握り

群馬県みなかみ町 増田 津恵

雪虫飛ぶ庭木の下の小さな墓熱砂に歩けず逝った愛犬

群馬県みなかみ町 増田 津恵

歩いてても歩いててもまた歩いてても歩ききれなかつたもう居ない道

群馬県みなかみ町 増田 津恵

手術後の私の歩みに歩を合わせ夫と語らふ野辺の折々

大阪府河内長野市 木村 嘉子

バッシューのかかとを折って踏み歩く君は今年も大学浪人

山口県光市 松本 進

パソコンを打つその指のやわらかに放るどんぐり児と歩く日は

群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子

足もとをしつかり見据え下り坂一步一步と杖と進む

群馬県高崎市 塚越 小枝

停留所一つ手前で降りてみる一万歩より上を目指して

群馬県高崎市 塚越 小枝

黒が父赤が孫かなジャンパーの並んで歩く故里の道

群馬県高崎市 塚越 小枝

般若経仄暗き廊ろうに流れおり供茶の式に歩みゆくなり

群馬県高崎市 塚越 小枝

虫の声ききつつ歩む草の道夫との会話少しとぎれて

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

郵袋に栗通草など持ち帰る祖父は山歩く配達夫なりき

石川県金沢市 前川 久宜

金色の稲穂の道を妻と来て小さき祠に歩み止めたり

石川県金沢市 前川 久宜

スーパーはすぐそこなるも試歩の身をいたはりさきやかわれの手料理

茨城県笠間市 飯田 初江

試歩なるも山茶花の垣花満ちて蛇を訪ひわれをいざなふ

茨城県笠間市 飯田 初江

弟と歩くときには手をつなぎ車道の側を歩く十歳

岐阜県飛騨市 横山 美保子

風の色空の色ともとびきりの今日といふ日の一步を踏み出す

群馬県前橋市 久保田 桂子

支えられ歩み来る母の殊の外おぼつかなきに黙し見つめる

秋田県秋田市 蓬田 真弓

振り返れば遅き歩みの半生と思えど愛し我の来し方

秋田県秋田市 蓬田 真弓

からくりがそろり歩めばワァーオーと異国の人も声を挙げたり

岐阜県飛騨市 江尻 恵子

歩道橋に立ちて手を振る園児らに電車の汽笛ひとつ呼応す

神奈川県横浜市 高山 克子

杖なくも歩ける事を思いつつ枯れ葉舞い散る落葉踏みゆく

神奈川県横浜市 高山 克子

牧水も確かこの道歩いたね一世紀ののち私が辿る

群馬県沼田市 桑原 環世

肩並べ歩いた道は記憶してくれただろうか君の足跡

群馬県沼田市 桑原 環世

狭き庭にコスモス植ゑんと歩きたれば木犀の香仄かに匂ふ

広島県福山市 杉之原 壽美

車椅子に歩み委ねし母と行く通院の道に花びら散りぬ

神奈川県川崎市 藤原 礼子

歩み来し大正昭和平成を洗濯^だ胼^こ胝^{しる}の著^{しる}き母の手

神奈川県川崎市 藤原 礼子

杖をさし買物カート押す妻の別の目的歩行訓練

宮崎県日向市 黒木 直行

城下なる往時を偲ぶ町の名よ歩^か行^ち町木屋町鉄砲町と

愛媛県松山市 宇和上 正

弛まずにいつか「と金」と胸に秘め七十三歳未だ「歩」のまま

愛媛県松山市 宇和上 正

僅かなる一步の拡幅を集め真つさらのゴールへとアンカー

東京都文京区 遠藤 玲奈

死出の旅となるやも知れぬ子がオペにふり向かず歩む冷えし廊下を

群馬県昭和村 板橋 きみ江

接骨師に歩けと言はれ十五年今朝はオリオンいくたび仰ぐ

群馬県昭和村 板橋 きみ江

反射版つけて歩まば遠くより車はライトを下に向け来る

群馬県昭和村 板橋 きみ江

人工骨入れたる膝の試歩止めて妻公園の足湯に息衝く

大阪府岸和田市 向井 靖雄

三毛猫の親子を見つけ列乱す遠足園児歩道を占める

佐賀県唐津市 浦田 穂積

延^{えん}齡^{れい}草^{そう}亡^つき夫^{つま}愛^めでし小さき花一步近づき咲き続けよと

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

それぞれの道歩み出す孫達は我の届かぬ新しき地へ

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

店の名「歩」訊いてみたいと思いつつその名の由来未だ解らず

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

完成にもう一步とふわが国のコロナの薬に期待ふくらむ

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

「平塚^{らいてう}らいてう」は「信念」強く握りしめ前へ歩みし稀^き代^{だい}の「おばさん」

群馬県みなかみ町 関 信司

旅をするアサギマダラに逢いたくて天神平を歩みつくさん

群馬県みなかみ町 関 信司

大丈夫そう慰めて歩む吾昨日の失敗たて直し居り

群馬県みなかみ町 関 信司

六地藏心の歩み凝^み視^よと言う不確かなれど意志を持ちたり

群馬県みなかみ町 関 信司

幾つもの悩み抱えて歩み来し田に一礼し今日は稗^ひ抜^く

群馬県みなかみ町 関 信司

霜月の紅葉の峽に誘はれて歩をゆるめつつ友と語らふ

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

週一で二キロの道のり歩かむと三日坊主のわれに課したり

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

一步二歩進みし孫の幼日に近づく曾孫の面差し似たり

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

歩調合ひ気も合ひ少女と野のみちを夕陽に尾花白く燿^やふ

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

初じめての一步の出たり子の姿眩しみに見しに五十を越せり

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

ウォーキングに鍛ふる夫に並ばんと銀杏散り敷く歩道に小走り

石川県金沢市 橋本 枝折

わがために停まる車の数台へ会釈をしつつ歩道を渡る

石川県金沢市 橋本 枝折

傘持たず散歩出た事悔やみつつまホかかえて走る畑道

群馬県榛東村 高橋 恵

半世紀林檎栽培歩みには三箱千円の国光があり

長野県飯綱町 井澤 栄一

曳かれつつ先立つ犬と歩みゆく利根の川辺の流れを見つつ

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

秋風に秋明菊はゆれゆれて歩みを止めてしばしたたずむ

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

振摺の群れ咲く土手を歩みきて蝉鳴く声をしばし聞入る

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

小雨より歌碑読み唱へつ暮坂の峠路歩む一〇月二〇日

群馬県高崎市 猪俣 軍司

梓川歩めば水面に焼岳の姿写して池は静まり

大阪府柏原市 田倉 あけみ

老猫の一步一步のはかなくて庭に脱糞せしさま顕てり

群馬県高崎市 佐藤 香林

山峡の八尾に響く胡弓の音郷愁誘う踊り手の歩ふみ

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

山寺の坂道歩み五大堂眼下に望む降り立ちし駅

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

どことなく父に似ている羅漢像拝して歩む石段の道

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

カサカサと落葉踏みしめ散歩する雑木林にヤマドリの鳴く

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

真田氏の歩み訪ねて一人旅真田温泉露天湯に入る

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

五千歩をまず目標にウオーキング三日坊主に終らぬように

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

宿下駄を鳴らして歩く石畳温泉の外湯を巡る

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

稲を刈る田を離れざる白鷺の狙うは蝗つつと歩む

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

日に五千歩く両足労りて入浴毎に揉み解すなり

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

ふるさとの河岸段丘横に見て嘆きの坂を今日も歩むよ

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

利根川の岸边にそいし遊歩道今日の勤めと五千歩しるす

群馬県みなかみ町 石坂 作次

朝夕に歩み重ねる菜園に命の輝き確かめる幸

群馬県みなかみ町 石坂 作次

羊雲国境を越え秋澄めり伊賀野の里を妻と歩めり

群馬県みなかみ町 石坂 作次

相老いて八十路を確と歩みたし晴耕雨読を生きる糧とし

群馬県みなかみ町 石坂 作次

梅雨あけの我が世をうたう雑草あづきに呆然として畑に歩めず

群馬県みなかみ町 石坂 作次

在りし日にデイに通ひし母の靴足に馴染むか歩き確かむ

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

照葉峡の落葉散り敷く岨道を冬日背に受け語りつつ歩む

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

利根川の遊歩道の辺の歌碑公園晶子愛づるや紅き萩咲く

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

野外フェスのマリオネットと見紛ひぬ歩き初めたる小さき子と母

兵庫県宝塚市 小竹 哲

朝夕の犬の散歩にリズム生れ夜更かし朝寝少なくなりぬ

山形県鶴岡市 大沼 二三枝

真夜覚める犬に付き添う外歩き月の光が毛並みを照らす

京都府舞鶴市 新谷 洋子

もみぢ葉を踏みつつ歩む伊香保路やレンズの向かふ笑ふ友をり

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

泥酔の父が歩いて時を超え百鬼夜行の先頭に立つ

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

試歩の道青田の風を真に受けて希望を繋ぐ一步一步に

大分県国東市 原 比呂子

朝朝にせめて支所まで歩かぞ日本全土を忠敬が歩く

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

生まれし日赤飯持ちて吹雪くなか一里歩けりと祖母が語りぬ

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

慎ましく共に歩みて五十年出合えた不思議父母に香炊く

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

夕焼に色付けされし山や川この地にあるを噛みしめ歩く

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

散歩道肩寄せ合うて露のとうどこかほっこり歩数の伸びる

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

ことのほか真赤に染まる庭もみじよちよち歩く孫と見上げむ

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

姉見舞う日向ぼつこの縁側で試歩に手を借ししばし戯る

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

薄紅の蕾ふくらむ樹々の下 仕立てし喪服を小脇に歩む

東京都中央区 佐藤 直大

落ち葉踏みただ歩きただ枯れ枝を拾えば楽し園児の行進

東京都中央区 佐藤 直大

秋の夕雨降り続き空にらむ短き足で濡れ歩く猫

群馬県みなかみ町 篠原 悦二

亡父の歳追いつ越して早二十年父の知らない人生歩む

群馬県千代田町 大谷 光男

歩み来し五十年余の夫婦道未知なる道を踏みしめ歩む

群馬県千代田町 大谷 徳湖

街角に小さき石碑佇みて故郷の歩み今に伝えむ

群馬県前橋市 山崎 義樹

湯めぐりの浴衣娘が練り歩く声は華やぎ下駄はカラコロ

群馬県前橋市 山崎 義樹

一歩ずつ君との距離を近付ける片想いつて言う名の作業

千葉県市川市 竹谷 華林

コロナ禍で幸せくれた初孫の初めて歩むハイハイ動画

群馬県みなかみ町 小林 和子

送られし初めて歩む一步ですハイハイ動画笑顔で拍手

群馬県みなかみ町 小林 和子

(大手門前「歩車分離」にするとはね)「下馬」想像し信号を待つ

群馬県昭和村 加藤 南風

これまでの歩みの良しを認めるは先人からの良しの後押し

群馬県昭和村 加藤 南風

歩きだすここはどこだ無言の人らにモシモシオーイーン目が覚めた

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

猫を抱き背中丸めて歩く娘の早足に少し心晴れる

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

温かい11月の軽井沢バージンロード歩いた二人

群馬県みなかみ町 田中 春枝

病室に朝の光が入るころ長い廊下を母は歩みて

群馬県みなかみ町 本多 義二

かめ虫が畳の上を歩き来る待つてください 食事中です

群馬県みなかみ町 本多 義二

火曜日は歩いて五分 居酒屋へおとうしだけで酒を楽しむ

群馬県みなかみ町 本多 義二

爪先で廊下を歩く午前二時猫をひと撫で秘密をともし

群馬県みなかみ町 篠原 香代

息白く二人っきりの散歩道手袋ごしの三十六℃

群馬県みなかみ町 大山 智也

隣人に歩みよりて声かけて嵐のライブで肩組み歌う

群馬県みなかみ町 篠原 忠

負けてから歩の一手でも覚悟決め名人に勝つ詰めの迫力

群馬県みなかみ町 篠原 忠

月食を観ながら歩く須川宿握ってきた手はひんやりしてた

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

幼き日野の花摘んで歩み寄り私にくれた君も大人に

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

還暦を過ぎて我が道思うとき共に歩きし姉妹を想う

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

いつも歩の音ではじめていた会話

父さんの指す初手7六歩
群馬県みなかみ町 山崎 杜人

都会より楽しみながら歩けるよ友は言うけどクマがでるのはよ

群馬県片品村 金子 美由紀

友がいう靴擦れ見せて吟味して選んだのにねまるで人生

群馬県片品村 金子 美由紀

手袋じゃ伝わらないから脱いだ手に吾の手を重ね歩き出す君

群馬県前橋市 木下 美樹枝

夕なつむ京都の街を君と二人話はず歩いたあの日

福井県小浜市 玉井 令子

遠き日に哲学の道を下駄履きで歩きし友の近況とだへ

福井県小浜市 玉井 令子

生まれつき歩く行動備わるなり生きる上での必要動作

大阪府大阪市 水上之川

高齢者歩行不安定膝の痛み我施設で従事し痛感す

大阪府大阪市 水上之川

我自身福祉の仕事実施する時折歩行訓練付き合ふ

大阪府大阪市 水上之川

人生はとても本当に長いなり一歩ずつ自分の道を進む

大阪府大阪市 水上之川

これからは障碍しょうがい雇用存在しよがい障碍者達も歩む時代

大阪府大阪市 水上之川

緊急事態解かれし朝の通学路歩みもかるくスニーカーがゆく

東京都世田谷区 高橋 登喜

かさかさと落葉踏みしめ歩む道更なる恵み紅葉雨ふる

群馬県みなかみ町 中島 淑子

ヨタヨタとやつと歩める我なれど二本の杖が大事な伴侶

群馬県みなかみ町 中島 淑子

母背負い歩む夫の眼潤みたり源氏螢の輝る川岸

宮崎県宮崎市 青山 昌子

公園に拙き歩みの子を見つけハイハイの吾子猪突猛進

群馬県渋川市 木暮 由利子

古棚にセピア色の本二冊義父の愛した牧水の歩み

群馬県みなかみ町 櫛渕 素園

牧水の行歩のあとを辿り来て佐渡まで自転車義父は和顔に

群馬県みなかみ町 櫛渕 素園

春耕のあぜ道歩む父の背に手仕事時代の遠き日廻る

群馬県みなかみ町 櫛渕 素園

鬼になり親にもなりて子にもなり根氣と闘ふりハビリの歩

群馬県みなかみ町 櫛渕 素園

雪解けの鳥居峠の我が座所はあと形もなし歩もなし

群馬県みなかみ町 櫛渕 素園

娘の買ひし歩めぬ夫に置き物の鴨の番は寄り添ひ泳ぐ

群馬県高崎市 湯浅 茂子

もらぬ湯の帰路のふたりのつれづれに遠まはりして月と歩まむ

群馬県みなかみ町 遠藤 長代

顔見れば散歩に連れていかると思ひて犬の姿かくしぬ

群馬県高崎市 天田 勝元

新月の暗き夜空に流れ星歩幅広めて家路を急ぐ

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

初孫におもち背をわせ一歩二歩祖父祖母にこにこ慶こびもろう

群馬県みなかみ町 真庭 三枝子

ひとすぢの銀杏もみぢを踏みゆくに贖罪思ふ 歩みゆるめり

広島県広島市 小野 系子

徒歩五分駅近利便築浅し憂鬱な人のメリーゴーランド

大阪府羽曳野市 凜 七星

覚めきらぬ夢の異人の歩廊や覆の硝子の鐘ひびく中

大阪府羽曳野市 凜 七星

飛車先の歩をつき若き三冠は第四局の初手となしたり

滋賀県大津市 船岡 房公

歩くといふ夢の広る幸せを杖を頼りに空を見上げる

千葉県船橋市 高屋 敏子

歩けねばどこにも行けぬとさとされて頑張る足に力が入る

千葉県船橋市 高屋 敏子

夕凧の海の匂いに晒されて汀を歩く二人の旅路

群馬県みなかみ町 原澤 朝則

木犀の香る坂道夕風にこの先の秋数えて歩く

群馬県みなかみ町 原澤 朝則

逝きましし夫の無念を想いつつ欠かさぬ日課の墓地への歩き

神奈川県座間市 蓮見 孝子

もう一歩前へ進めとうながされ体温測るオカリナコンサート

京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子

たのしみて卒寿の頭脳をもみほぐし短歌は生きがいひとりの歩み

京都府福知山市 阪根 まさの

見合ひ後に来たる手紙に書かれしは三百六十五歩のマーチ

宮崎県宮崎市 中村 葉月

付き合ひし頃と歩幅が変わるのか少し先行く夫の背を追う

鳥取県米子市 生田 麻也子

ばあさんの速度に合わせ散歩道見慣れた景色涙で滲む

埼玉県加須市 宮本 学

一般の部【自由題】

作品集

212人 482首
投稿順に掲載

とらつぐみ今夜は鳴くな遠き日の母と行きたる水車の径に

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

いちめんの東一華は踏まずゆけ夕には閉ぢる花のいのちを

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

しやぼん玉の虹を追ひゆけ赤とんぼ汝のいのちのかがやく今を

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

山百合は山に咲きたり海百合は海に咲くとふされども知らず

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

浅き瀬を渉る足裏に光りゐる小石ひとつを拾ひて帰る

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

君と云う歌を好みて詠みし君あどけなき影残したる君

群馬県みなかみ町 番場 正夫

神仏に楽しく一日過ごせしと謙虚さを添え誓う朝かな

群馬県みなかみ町 番場 正夫

囀りに耳傾けつ峡路行き黄色目を引く夏鳥翔り

群馬県みなかみ町 番場 正夫

黒き肌日々が増したる岳見つつ古事にならいて畔を塗りをり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

黒肌の日毎に増えし岳見つつ古事にならいて田水引きをり

群馬県みなかみ町 番場 正夫

清流にぎぶんと魚くわえきて枝に叩けるカワセミを見る

静岡県浜松市 大庭 拓郎

青空のたかき梢にゆれ鳴くは双眼鏡にて頬白と知る

静岡県浜松市 大庭 拓郎

ひさびさの日本酒なれば抱き寄せてラベルの故郷なつかしく飲む

静岡県浜松市 大庭 拓郎

老木は齧送りにて倒れゆくあるべき姿示しつつ行く

群馬県高崎市 齋藤 宏子

暗闇の森の声ありかさこそと明日に生まれし木の王子待つ

群馬県高崎市 齋藤 宏子

なじみ店茹でを三分増す依頼くぐもる声のやつれし口元

群馬県高崎市 齋藤 宏子

コロナ禍のアルコールは手を洗うもの旅を忘れし鳥としたしむ

秋田県大仙市 鈴木 仁

コロナでも不安な日々の終わる日を信じて過ごす日々を備えて

千葉県千葉市 うめさわかよこ

古希過ぎて一人呟き歌うのはシュプレヒコール「世情」という唄

北海道札幌市 鎌田 誠

かすかなる音さえ消えし夜の更けを豪雪におびえ目は冴えており

岐阜県飛騨市 野村 訓啓

コロナ禍は二年目となりいつもより早い梅雨入りますますこもる

宮崎県日向市 黒木 直行

爆死せる学徒らあまた埋められし滝尾橋下夏草の生ふ

大分県大分市 羽田野 とみ

自転車の学生幾人過ぎる土手野芥子はしるき綿毛を放つ

大分県大分市 羽田野 とみ

朝早起窓に入り来体操に向かひゐるらし児らの高ごゑ

大分県大分市 羽田野 とみ

老いたれば遠出の旅のままならぬかへり来ぬ日の旅路を辿る

岐阜県中津川市 古井 富貴子

向日葵はみな勝鬨をあげて咲くとうの昔に我すでにあげ

茨城県結城市 湯本 康二

わが番に近づくごとに緊張すコロナワクチン打つはもうすぐ

長野県箕輪町 市川 光男

梅雨明けてコロナ明けないモヤモヤを自粛窓から新緑キラリ

大阪府大阪市 後藤 憲之

紅葉山美を賛辞し深呼吸もつれる足も老いのゆとりか

大阪府大阪市 後藤 憲之

あざやかなスカイ・ブルーの雲かとぞ凝らして見れば小満の空

群馬県高崎市 秋山 充利

田舎駅ポツンと消えし母残し姿は消えず暇に残る

三重県亀山市 岩谷 隆司

七九傘寿の前の我が思い生きて迎えん米寿の祝

三重県亀山市 岩谷 隆司

若き日はあれもこれもと夢を追い夢のごとくに過ぎて七十九

三重県亀山市 岩谷 隆司

年に数度無性にコーラが欲しくなるわが青春のページは続く

愛知県知立市 星原 風堂

購読の雑誌の届き礼を言うフリーランスの配達員に

埼玉県所沢市 若山 巖

裏庭の隅の小さな露を煮た春の香りがしたよ充分

徳島県阿南市 坂東 典子

山肌の残雪とけて馬すがた浮き出すころ田植えの始まり

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

ひび割れの田枯れ草焼いて水注ぎ芽吹きとともに代かき始まる

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

揺れ動く月の光はレモン色田の水かがみ風映す夜

群馬県みなかみ町 田中 春枝

下駄箱の隅より出でし田植足袋頭の中でゆっくり歩く

群馬県みなかみ町 本多 義二

早春の山の斜面を登りゆけば足元に揺るる片栗の花

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

多すぎる取引先の「田村さん」名前と地名で呼び分けてみる

群馬県みなかみ町 篠原 香代

風が吹く漂う君の残り香と田んぼの真ん中麦わら帽子

群馬県みなかみ町 大山 智也

JOC世界の思い駆けめぐり日本に届く批判と不満

群馬県みなかみ町 篠原 忠

田植え待つ連休中の水田に無数のリング雨粒落ちて

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

幼き日家族総出で田植えした我が家の田んぼ役目終了

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

過去となる田植えの時期は大騒ぎ家族総出で並んで手植え

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

晴れ渡るはずの明日はマルマンのヴィファール水彩紙を買おう

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

あぢさゐの青から白へまた青へ人の目線の蝶が飛び交ふ

東京都足立区 鷺沼 あかね

反ることも楽し美しとグロリオサちぢれた花を瑠璃に誇りぬ

兵庫県洲本市 大村 博子

帆を上げて二本の舵で向き変へる船底重く帆船は行く

兵庫県洲本市 大村 博子

牧水の歌碑を訪ねて百草園のぼりつめれば青富士ちかし

東京都世田谷区 野上 卓

牧水の歌を読むとき酒粕に酔うわが性を恨みなくなる

東京都世田谷区 野上 卓

いつしかに伝言板の消えし駄みな俯いて叩く指文字

北海道札幌市 鎌田 誠

明けやらぬ窓辺に雄猫ラブコール硝子に突進愛猫パニック

群馬県みなかみ町 奥村 清美

追悼のドラマに今も生きている名優たちの懐しき声

群馬県みなかみ町 奥村 清美

花を食み肉食み卵を捕る鴉いまだき五雛の育つ子福者

愛知県豊橋市 篠田 武子

動物園の古参であれどライオンはごほんの時間にそわそわしだす

愛知県豊橋市 篠田 武子

ミャンマーに軍の銃声鳴り止まず豎琴の音は掻き消されたり

愛知県豊橋市 篠田 武子

目に見えて成長続ける木の緑吾も伸びるチャンスをかさ

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

泣く吾に成るようにならぬ事論ず吾居る夢のなかにて

茨城県鹿嶋市 児矢野 雅恵

里山が桜の色に染むる日は胸にほつほつさわぐものあり

岡山県和気町 行正 健志

コロナ禍を防ぐとマスクし手を洗い外出せつわれ八十八歳

群馬県沼田市 今井 栄一

拭いても拭いてもなお泣く娘にはそつと出したり手製の梅酒

三重県伊勢市 伊藤 理恵

半世紀住みたるわが家の愛しけれど子等と同居のこの道選ぶ

群馬県沼田市 田村 鶴江

中国のみやげと夫より渡されし冬虫夏草口のありたり

群馬県沼田市 田村 鶴江

久に会ふ姫のくるる花麒麟花よし名のよし半年を咲く

群馬県沼田市 田村 鶴江

ひたすらに草食む羊せいせいとバリカン痕つけ裸に歩く

群馬県沼田市 田村 鶴江

惚けつつも母のふた言め蜜月は身延山とて笑顔を何くる

岐阜県中津川市 吉田 順代

かけよつてすぐオコジオツて寝むたそう明日影夜のひとの夜寒さぶ

群馬県伊勢崎市 白根 あおい

白こ隊あこう浪子の黄泉の国あの世幾漠この世のさかい

群馬県伊勢崎市 白根 あおい

遠き日の頂より見しみなかに立ちて仰げり谷川の峰

秋田県湯沢市 村田 磨理子

忘却を打ち鳴らされて思ひ出づ美しき瞳に恋せし我を

秋田県湯沢市 村田 磨理子

長芋のシャリシャリ感を残し煮る、歯ざわりの良い言葉はいらぬ

岐阜県岐阜市 大栗 紀美子

のんびりと青空を舞うトンビなれ生きるためなり羨しむなかれ

岐阜県岐阜市 大栗 紀美子

ありがとうございましたと礼を言い別れたら一番いいね

兵庫県神戸市 西塚 洋子

自然美に牧水訪ぬみなかみは世紀を超えし景いまもなお

群馬県沼田市 美 泉

九年間勤めし校長無事終える弟の声の受話器にやわし

東京都東村山市 浦壁 あけみ

みなかみは夫との人生の出発点閑かな縁に思い出語る

東京都東村山市 浦壁 あけみ

オリンピックの聖火のごとくわが庭を明るく灯しスカシユリ咲く

東京都東村山市 浦壁 あけみ

悪人にも一つは良いところあるようにコロナはマスクで吾が老い隠す

東京都東村山市 浦壁 あけみ

十年後の我家のことを思いつつギョウザの皮に夢包みゆく

東京都東村山市 浦壁 あけみ

山畑に残る桑の木見るたびに蚕飼ひの祖母の紺緋頭つ

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

「さあ当たれ」掘炬燵へと十能で熾足し給ふ在りし日の祖母

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

照れながら豆まぐ孫に激飛ばす声大きくと喜寿の吾が声

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

麻醉切れ遠き意識に聴こゆるは医師の呼ぶ声子等の呼ぶ声

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

久々に聴くみどり児の泣き声か夜更けて暗き路地の奥より

埼玉県朝霞市 金澤 隆男

ダツシユして部屋から部屋へと駆け回る午前三時の猫の目覚めよ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

人は皆どこに消えたと思ふほどひとつそりとした曇天の午後

群馬県みなかみ町 奥村 清美

「具合どう」気にかけてくれる友の居てほわんと胸の暖かくなる

群馬県みなかみ町 奥村 清美

雨に煙る苦坂峠の眼下より神代川のせせらぎ聞こゆ

岡山県新見市 小田 遵子

職退きて乗車時間と居眠りが徐々に増えゆく「深夜便」かな

宮城県仙台市 角田 正雄

なんにするイチゴシロップかけようか庭の向うのわき立つ白雲

茨城県常総市 太田 きみ子

つゆ空にビヨウヤナギが咲きました九十七歳逝きし叔母のもの

茨城県常総市 太田 きみ子

背を丸む卒寿の姉を見送れば四ツ角渡り必ず振り向く

茨城県常総市 太田 きみ子

水張りて大鏡なる峡の田に化粧ふ天女は楽しかるべし

山口県宇部市 藤井 重行

日本の美しき自然をビデオで見ると大抵行ききは八十路の足あと

福井県小浜市 大江 青流

重たげに頂垂れたよにカンパニユラ水辺のふくろホタル導く

群馬県みなかみ町 武田 裕希子

見えずともそれでも進む止まらない曲がりくねった月夜の峠

群馬県みなかみ町 武田 裕希子

するするとたすき掛けして手拭いを姉さん被りしてみる師走

青森県青森市 高橋 圭子

あの橋を渡りたかった初恋の笛吹き川の風が泣いてた

奈良県奈良市 大森 富士子

クレヨン「はだいろ」表記消えし今子らは何色選ぶのだろう

群馬県藤岡市 清水 静子

食よくもねむけもすすむ梅雨しぐれあじさいの花色あざやかに

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

人の世にこわいもの知れコロナ禍それでも五輪やると官民

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

皆の顔しかみした五輪の日政府は何を選挙のためか

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

日ぐらしになぜか気になる熱中症遠い子たちの温度最高

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

老の手に残る二つの孫達の幼きころのぬくもりだけが

群馬県みなかみ町 阿部 智恵子

何の其の老いての夫婦入院の君とコロナ禍携帯に暮る

富山県高岡市 古澤 澄子

みなかみの雪は寒さは?と案じる我、いつしか第2の故郷となりぬ

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

ソーダ色のフリルワンピースで 榛名湖畔を父母と手つなぎし遠き夏の日

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

母の手製、母とおそろいのスカートに高原の風が吹きぬけてゆきぬ

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

あつらえし幼友とそろいの白レースワンピース山へ海への夏の思い出

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

空色のパフスリーブおそろいで新潟に泳ぎし友4人の夏

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

横浜へ、ダンスパーティーへ、金沢へも着たるオレンジ色のフリルワンピース

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

手編みせしアラン模様のセーターは愛犬と同じピュアホワイト

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

紫のレースの羽織、袖も通さず祖母の形見分けとなりけり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

上品な母のタンスのブラウスはモーブ色のグラデーションなり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

我が庭も境公園も、桃、藤、白とパステルカラーの水彩画となり

群馬県伊勢崎市 新井 恵美子

木々いまだ芽吹かぬ山の傾斜地にひそと咲きをりかたくりの花

群馬県みなかみ町 小林 博子

伝承の村の祭りの里神楽弟の舞ふ凜々しき姿

群馬県みなかみ町 小林 博子

柔らかき土の香匂ふ山畑に陽の温みある馬鈴薯を掘る

群馬県みなかみ町 小林 博子

峡の田のほとりに立ちて頬白き羚羊に会ふ幾たびか見ゆ

群馬県みなかみ町 小林 博子

猛暑過ぎし豊作の田の片辺にみぞそばの花繁りて咲きぬ

群馬県みなかみ町 小林 博子

若き日に都会ですごした吾がために泉屋クッキー嫁はみやげに

群馬県前橋市 長谷川 陽子

疎開先一番多き長野県わが和組にも七人の友

千葉県船橋市 川崎 富子

終戦後疎開の友も故郷の千曲の流れ飯綱山と

千葉県船橋市 川崎 富子

雨香り日暮しが哭く夕まぐれ臥して味わう三年目、夏

群馬県みなかみ町 どりーメキ

マイスリー温いロックで流し込みトばしてください夜明ける前に

群馬県みなかみ町 どりーメキ

轟音と嬌声のなかさめざめと散ってしまおう灰色火花

群馬県みなかみ町 どりーメキ

かつぶしを上品に食みやつがれに「余を奉れ」とにやあの一声明

群馬県みなかみ町 どりーメキ

朴訥と二十余年を生きぬれど障るたはむれに機微を詠むとは

群馬県みなかみ町 どりメキ

真夏日を降りし夕立夕刻の道路は雲の湧き立つが如

大分県竹田市 佐藤 政俊

せせらぎの流れにのりて聞こえる河鹿の声にコロナ禍忘る

群馬県高崎市 神澤 静枝

マスク顔会釈へりゆく常となる顔見知りへり我も消えゆく

愛知県蒲郡市 牧原 正枝

山間の遅き日の出の集落に夏うぐいすの澄みし声聞く

群馬県みなかみ町 林 いくじ

宇宙船と交信するがに週一度スマホの画面の母に手をふる

群馬県榛東村 川本 福江

秋茜のハートの形のカップルがマルチの窪みの水に震へる

群馬県榛東村 川本 福江

よろこびの言の葉の翅重ねゆく澄みたる空へ呼ばるる日まで

群馬県沼田市 蛸山 恵子

これまでの予防対策大丈夫？猛暑促す副反応

群馬県昭和村 加藤 南風

ラジオから聴こえた「あなた」窓辺にて母国そこにコオリアのなか

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

冷えた足そつとさすればもういとニッコリ笑う笑顔寂しき

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

「やっと咲いた仏に上げる宝ばな」指折りながら父は歌詠む

群馬県みなかみ町 田中 春枝

電柱のからすの動き言葉あり遠くカアカア俺にアホアホ

群馬県みなかみ町 本多 義二

柄長の子押し合ひながら餌ねだり枝葉揺れたり初夏の朝

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

蚕時雨が祖母の唄をかき消して手おんぶで泳ぐ春蚕の海を

群馬県みなかみ町 篠原 香代

音さえもなくして進む秒針は孤独とともに夜に溶け込む

群馬県みなかみ町 大山 智也

運転手香る焼き肉そそられて素通りしてもお腹を満たす

群馬県みなかみ町 篠原 忠

枯れかけのカーネーションの世話をする再び見たいピンクの花を

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

父の日に娘五人でプレゼントその服を着てお芝居にゴー

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

雨上がり父は草取り終えて挿す庭に咲いたカシワバアジサイ

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

源の字のさんずいの音聞こゆ櫛の樹幹に凭れかかれば

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

車窓から茜の山々眺めつついつの間にかこちらが故郷

群馬県片品村 金子 美由紀

百日草今年も咲きて庭いつぱい去年の花の二世に会ひぬ

群馬県みなかみ町 林 恵美子

老鶯の「デッキルデッキル」と聞ゆるは草引く畑のわれのみなるや

群馬県みなかみ町 林 恵美子

猛暑日の暮るるを待ちて花に水ひぐらし鳴きて心が和む

群馬県みなかみ町 林 恵美子

オリンピック野球と卓球同時刻チャンネル忙し交互に観戦

群馬県みなかみ町 林 恵美子

雨つづき大きくなりし茄子胡瓜水分たつぷり俎板ぬらす

群馬県みなかみ町 林 恵美子

聴覚に視覚嗅覚全開のおさな連れゆく初めての場所

群馬県川場村 桑原 謙一

大学に行くのは最後まで歌に詠む梨子さんの春コロナ禍続く

群馬県川場村 桑原 謙一

俺の場所と言わんばかりにかまきりは鎌をもたげて紫蘇の葉の上

群馬県川場村 桑原 謙一

金木犀伐りし幹よりによきによきと幼き枝葉梅雨の明けたり

新潟県新発田市 三浦 ユリコ

散りつもる桜の花びら箱に入れママへと真中に赤き花文字

宮崎県宮崎市 熱田 民恵

雪の精笑顔の君にいやされて淋しい心に春の風吹く

群馬県みなかみ町 あーる け

庭に咲く青紫のあじさいはしとしと雨に打たれ輝く

群馬県みなかみ町 あーる け

チャーミング八重歯の君は想い人女神か魔女か心奪われ

群馬県みなかみ町 あーる け

窓の外激しい風雨稲光り轟き渡り闇を引き裂く

群馬県みなかみ町 あーる け

雲海に浮かぶ越後の峰々に陽光照らし朱の輝き

群馬県みなかみ町 あーる け

森林のマイナスイオン浴びながら青空の下ちよいとお昼寝

群馬県みなかみ町 あーる け

雄大な大空泳ぐこいのぼり見上げる子供何を思いて

群馬県みなかみ町 あーる け

幼きに闇に飛びかうホタル追う今姿見ずさびしさつものる

群馬県みなかみ町 あーる け

天の川二人の涙止まらない氾濫起こし降り止まぬ雨

群馬県みなかみ町 あーる け

梅雨時の緑生き生き雨蛙疲れたためにもピンピンとどく

群馬県みなかみ町 深代 里子

梅雨時の足元照らす波紋かな小さなくぼみ小鳥集まり

群馬県みなかみ町 深代 里子

医学生咲いた咲いたね桜子が天までとどけ未来の桜

群馬県みなかみ町 深代 里子

夢の中父に手紙を書きました返信不要のかつこをつけて

群馬県みなかみ町 奥村 清美

なんとなく物足りなさに見上ぐ空燕の去りし電線にとんぼ

群馬県みなかみ町 奥村 清美

彩雲の見らるる事を願ひつつみあげる空にかかる虹ふたへ三重

群馬県みなかみ町 奥村 清美

寺参り天上天下の指先にとんぼ止りて笑みこぼれをり

群馬県みなかみ町 中島 早苗

入道雲散りて鯖雲鱒雲又広ごりて秋の長雨

群馬県みなかみ町 中島 早苗

欠伸は移る笑ふ事泣く事もテレビからでも心はふしぎ

群馬県みなかみ町 中島 早苗

終つひの駅銀河鉄道の人となり天の川越へ安らかに降る

群馬県みなかみ町 中島 早苗

月もなくただ鈍色の秋の夜虫の音響く永遠のごと

群馬県みなかみ町 中島 早苗

大紅葉暮坂峠粧いたり歌人の道を訪ね歩めり

群馬県前橋市 小畑 吉克

去年こぞの春の家族写真は父が居て「コロナ前夜」とラベルに記す

神奈川県藤沢市 近藤 千壽

指先がふいに触れたる冷たさに老いたる妻の手を包む夜

茨城県東海村 風森 漣翠

孫さそい天を見上げる我が膝で手水ちよみずの中に月をみつけり

群馬県みなかみ町 大淵 照雄

虎杖りやよもぎ背に負ひ夏草に挑みし亡母との想ひ出杏し

群馬県中之条町 中澤 いし

猿を追ふ爆音ひびく集落に遠きアフガンの恐怖想へり

群馬県みなかみ町 高橋 操

尖り見ゆ谷川岳の二つ耳雪待つ尾根に厚き雲見ゆ

群馬県みなかみ町 高橋 操

原産地中国と聞く画眉鳥の多くの民の声かと鳴きぬ

群馬県みなかみ町 高橋 操

重なれる葉かげに見ゆる柿の実の僅か色付く今朝の秋冷え

群馬県みなかみ町 高橋 操

つぎつぎと色鮮やかに山つつじ山家の庭に返り咲きをり

群馬県みなかみ町 高橋 操

我が裡にひめたる誇り風かおる今年もその日ひとりで乾杯

岡山県新見市 井原 志津枝

忘れ得ぬ罪を犯せし我が行爲「茅の輪」くぐればお祓い給ふや

岡山県新見市 井原 志津枝

人中で喚く暴れる障害の吾が子頬打つ手何思いしや

群馬県みなかみ町 野澤 武

急降下新聞部数道づれに消してはならぬ短歌うた詠む文化

群馬県みなかみ町 野澤 武

堂々と化粧落すか人前で二ツの耳持つ上越やまの岳

群馬県みなかみ町 野澤 武

我が腕に第九の響き冴え渡るコロナ勝利管を通して

群馬県みなかみ町 野澤 武

コロナ禍の独り住いの老人の話し相手はつぶやく短歌

群馬県みなかみ町 野澤 武

うろこ雲見る間に広がり空一面いちめん秋もたけなわ季節は正直

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

今日も雨・雨・あめとつづきをりコロナ・災害終息願う

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

彼岸花刈り残されし田の畦に夕日をあびて静かに揺れる

群馬県みなかみ町 高橋 吟子

お隣りの老いはホームに越してゆき半年たちて絵手紙寄す

徳島県阿南市 小畑 定弘

早苗田のそば降る雨に鷺の二羽片足立ちに獲物を狙う

徳島県阿南市 小畑 定弘

亡き妻の繕つくろいおきしメリヤスば肌にあさしく温もりてくる

群馬県高山村 割田 良次

腰を曲げ杖を頼りに亡き妻がしぶしぶ還る送り火の先

群馬県高山村 割田 良次

折々の野の花活いけて供へれば遺影の妻がじつとみている

群馬県高山村 割田 良次

弟より穫とりたて新米届けられ独り居の夕餉ゆうげ心なご和める

群馬県高山村 割田 良次

手づくりの藜あむでの杖は亀さんの遺品となりて散歩の道づれ

群馬県高山村 割田 良次

遙かなる湾の鷗よ置き去りし時のあはひを翔かけて逢ひたき

大阪府堺市 名川 由江

北上すスペイン兵の足跡のユーカリ並樹空を覆ひぬ

大阪府堺市 名川 由江

心から一番居たいと思う場所もとめて進む人生の旅

大阪府摂津市 高橋 好恵

忘れぬ地元関所に今も在る佐渡へ送らる囚人手形

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

もみじ葉に止まる揚羽は色付きて葉と見まがふほどの擬態となりし

群馬県高崎市 佐藤 瑞恵

雑草と言う名の草は無いという昭和の君は御陵おわに御坐す

埼玉県さいたま市 山本 好孝

手を伸ばし月に近づくあなたより三十センチ小さい私

埼玉県春日部市 藤澤 由紀

秋雨の軒に落ちたる音聴きつ眠れぬ夜は指を折りをり

群馬県みなかみ町 星野 ますみ

今日もまたコロナ感染報じられ過疎の町にも激震走る

群馬県みなかみ町 星野 真一

蝸の声を背中に鍬洗い穏やかにして夕餉樂しむ

群馬県みなかみ町 星野 祥一

長雨に頭を下げる稲穂あり刈り入れ時の秋は忙し

群馬県みなかみ町 細谷 龍夫

我が町は安全神話の中にありゲリラ豪雨も蚊帳の外にて

群馬県みなかみ町 細谷 長寿

深々と頭垂れたる実り穂は秋雨に堪え刈り入れを待つ

群馬県みなかみ町 西山 好夫

新米を頼みし農の稲畑を如何なものかとそつと視に行く

群馬県みなかみ町 中村 久夫

実りたる穂は深々と頭垂れ秋雨の中刈り入れを待つ

群馬県みなかみ町 平山 武雄

秋雨に遠くかすみし双耳峰肌はわずかに支度始まる

群馬県みなかみ町 下城 治

畦草を雨の中にて刈る農は足を踏ん張り機を振りをりぬ

群馬県みなかみ町 増田 みつ子

燃え殻の白きも黒きもあるを見つ古物語はかくて灰色

山口県光市 瀬戸内 光

真向ひは谷川連峰俎嶺雲ゆつくりと稜線を這ふ

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

人もこずマスク外して休日こそぞろ寒きよ紅さし過ごす

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

裾分けのチョコひと欠片陽に置かれ溶けてもどらぬ貝殻の型

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

育てるは「どうやるか」より「どう在るか」想定外を生き抜く力

群馬県昭和村 加藤 南風

肩寄せる相合傘で髪の毛の香る匂いがシャンプーなのか

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

水槽の向こうとこち顔くっ付けて「えなん家くる？」とペンギンに聞き

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

稲妻の阿米ダくじして行き着いた杉1本は君の生命

群馬県みなかみ町 田中 春枝

蛙の子 堰から上がれず平泳ぎ「ビート版だよ」草の葉落とす

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

「ちよつと来いちよつと来い」鳴く鳥に「手が離せぬ」と畑を耕やす

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

八月のあなたの逝きし日近づけば歌集を開き丁寧を読む

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

鯖紋が海の青さを吸い取った豊後の幸食む海鮮いづつ

群馬県みなかみ町 篠原 香代

草伸びる煎餅湿気る除湿器はすぐ満水に 暦も半分

群馬県みなかみ町 大山 智也

期待して負けてる時は他局にし我慢で魅せたダブルスの金

群馬県みなかみ町 篠原 忠

緊張のワクチン接種翌日は発熱寝込み抗体つくる

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

じいちゃんと暑い日中畑仕事時折の風心安らぐ

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

初めてのヘアークットはキョロキョロとママは動画をバアバは抱っこ

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

駆けだす子黙る子泣く子嘘つく子笑う子こどもはみんな素直で

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

携帯の便利機能を初使用友の声響く宝の持ち腐れ

群馬県片品村 金子 美由紀

翳りさす包丁片手に澄む空を取り籠めるまで砥石を研ぐ

群馬県伊勢崎市 野口 弘

退く事も引くこと適はぬ不隨身で口のみが利く押しの一徹

群馬県伊勢崎市 野口 弘

奥入瀬に真夜を太りし氷柱の澄む音聞くと耳近付ける

秋田県秋田市 加賀谷 実

若竹は日ごと背伸びて真つ直ぐに一人立ちせし吾子の名を呼ぶ

群馬県高崎市 湯浅 慧子

結婚の与へし言葉「お母さん」実母の縁のうすかるわれに

群馬県前橋市 松下 昭代

若き私の笑顔が決め手と照れつつも夫語りしと介護士より聞く

群馬県前橋市 松下 昭代

若き日にうとみし人もまたわれも川のおぶくと消えゆく身なり

群馬県前橋市 松下 昭代

豪雪のテレビニュースに目をやれば故郷の顔幼馴染が

群馬県みなかみ町 林 好一

コロナ禍にロボ人形の脳トレと暫しの時をもて余す日々

群馬県みなかみ町 林 好一

薬呑むための食事か日に三度八十路の余生今日も暮れゆく

群馬県みなかみ町 林 好一

目の先の花の名前が出てこない草引く己が手暫し休めて

群馬県みなかみ町 林 好一

新旧の朝ドラを見てどっこいしょ八十路余生の今日が始まる

群馬県みなかみ町 林 好一

ガーベラを雀りて占うこの思い届く届かぬ届かぬ届く

愛知県岡崎市 中村 佐世子

足らざりし介護託ぶればほのか笑み母の思いか皆光る

愛知県岡崎市 中村 佐世子

田をぬける青風好みて開け放ち芙蓉の花を母見し窓辺

愛知県岡崎市 中村 佐世子

短冊の子らの願いの星祭今どの辺り銀河の川の

東京都足立区 佐藤 春夫

胡瓜嘯むしやしきしやき感に食すすみ夏ばて知らずに秋風の立つ

群馬県沼田市 田村 鶴江

燃えるよなレンゲ躑躅が其処此処に武尊牧場炎のごとし

群馬県みなかみ町 長浜 利子

夏の日の午後のひとつき寛げば微かな風が薔薇の香運ぶ

群馬県みなかみ町 長浜 利子

画眉鳥に鶉鶯声張りて縄張り合戦聴は楽しき

群馬県みなかみ町 長浜 利子

大本を倒し開拓せし畑も後継者無く雑木繁れり

群馬県みなかみ町 長浜 利子

照葉峡名付けの親は秋桜子紅葉の名所見事な渓谷

群馬県みなかみ町 長浜 利子

籠り居に諍ふことの多くなりそを見る犬の眼ぞ哀し

群馬県みなかみ町 前田 明利

ゆくりなく地震を知らせる警告音身構へたれど何もなさざり

群馬県さいたま市 前田 明利

この秋もパセリの好きな縞柄の揚羽の仔らよ「おかへり、よく来た」

群馬県さいたま市 前田 明利

窓際の光浴びてるアロエの木背丈超えてるどこまで伸びる

群馬県みなかみ町 夏 花

サプライズ届いた箱は笑顔咲くひまわりの花今日は私の・・・

群馬県みなかみ町 夏 花

担当医膝に爆弾抱えてる本当に言われびつくり仰天

群馬県みなかみ町 夏 花

演劇へ姉に誘われにんまりと父の笑顔は私の宝

群馬県みなかみ町 夏 花

久しぶり揃う家族の笑顔咲く母を偲んで十三回忌

群馬県みなかみ町 夏 花

秋の空まだまだ続くコロナ禍に元気だせよと、ゴートウーイート

群馬県沼田市 一 花

プレゼント家族みんなで購入物に想像するよ父親の顔

群馬県沼田市 一 花

窓越しに働く姿姉の背を応援してる家族の絆

群馬県沼田市 一 花

やがて来る北のしぐれに先立ちて散るもみぢ葉のいとまのあらず

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

秋の川の注ぐながれの満てぬままダム湖の岸の乾きて白し

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

木枯らしの街帰りきてパソコンの開く画面の青き紫陽花

群馬県高崎市 佐藤 真理子

木彫の大理石の目に囲まれて求められない寂しさにいる

群馬県高崎市 佐藤 真理子

稲刈の終りし後のひつじ田に夕日に映えて白鷺の翔つ

群馬県みなかみ町 木村 初枝

夕暮の山里に啼く「かつこう」の子等が真似して家路辿りぬ

群馬県みなかみ町 木村 初枝

廃校の庭木に残る鳥巣箱時雨に打たれ冬に入りゆく

群馬県みなかみ町 木村 初枝

入り交り下校の子等が覗き込む「おたまじやくし」のいる水溜り

群馬県みなかみ町 木村 初枝

野茨^{のいばら}の花咲き匂ふ川土手の釣場の近きに「よしきり」の啼く

群馬県みなかみ町 木村 初枝

旅の人と声交はず日を待ち侘びる温泉宿が灯をゆらしつつ

青森県八戸市 木立 徹

紙面には秋ばら真紅に咲き誇る出掛けて行くふ中之条へと

群馬県みなかみ町 奥村 清美

水たまりまもなく乾くに赤とんぼちよん卵産み付けてゆく

群馬県みなかみ町 奥村 清美

木の葉舞ふ暮坂峠車椅子の母と吟^{ぎん}ずる牧水の詩歌^{うた}

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

弓道の練習を終へ丹念^{ひかま}に袴^{ひだ}を畳む日だまり

群馬県伊勢崎市 木村 あい子

台風と猛暑に堪えし田の面^{おも}に稲穂の波が豊^{ゆた}かにゆれる

群馬県みなかみ町 松井 とし子

四年前無欲で書した『蘭飛馨^{らんびけい}』今では僕の座右の銘に

群馬県昭和村 加藤 南風

草むしりとつた跡から生えてくるあつという間にもとの風景

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

カサカサカサ枯れ葉が後からついてくる「もう来ないの？」空は青かった

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

俺の事オタクと言えばそうかもなツイントールの横揺れに萌え

群馬県みなかみ町 田中 春枝

入道雲淡い期待を見送って諦めも知る九月の向日葵

群馬県みなかみ町 篠原 香代

久しぶり会った孫にも煙たがれ縁側に出て煙草燻らす

群馬県みなかみ町 大山 智也

茎の水どんな味する浄化水飲めば柔らかうまいぞこれは

群馬県みなかみ町 篠原 忠

「東芝」を「東之」と書く同僚に指摘できずに離れ離れに

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

土寄せにえんやこらさと鍬振るう大きな葉には朝露残る

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

健診で身長なぜか縮んでる若いつもりも現実を見る

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

車椅子押しなば淡く反^{かえ}りくるちからに冬の朝陽は差せり

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

芋明月栗名月と和菓子屋で鏡に映る笑う満月

群馬県片品村 金子 美由紀

縁側の柱に残る爪あとのささくれ古き外猫思ふ

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

秋晴れに皆の大物洗濯すそろそろふかふかシーツの出番

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

小春日に孫のようななる店員はやり方見守るセルフの給油

岡山県新見市 浅井 和枝

梅^{つゆ}雨の日に挿したる枝のやはらかくきよう一輪の紅きバラ咲く

群馬県みなかみ町 狩野 光子

夜明け前稲わらを焼く遠き火に働く人影小さく浮ぶ

香川県丸亀市 寒川 靖子

赤城山おらが向きこそ表^{おもて}だべ信じて仰ぐ上州の人

群馬県高崎市 熊澤 峻

長病みの息^こ子の頑張りが支へなるとコロナ禍猛暑にも友の明るし

群馬県安中市 新井 八重子

田一枚隔つ向かふの通学路下校の子らが「おばあちゃん」と声かけくるる

島根県出雲市 金山 黎子

霧の海突き抜く一輪遠花火コップの酒をかすかに揺らす

群馬県沼田市 高倉 嶮風

精一杯力尽くして悔はなしパラリンピックはみんな友だち

群馬県沼田市 高倉 嶮風

早朝に散歩していたあの山が今は高峯の遙かなる山

群馬県沼田市 高倉 嶮風

朝冷えの階段昇る妻八十路やさしく起す次男は五十路

群馬県沼田市 高倉 嶮風

戸神山山頂見えし岩肌に八十路の手と手しつかと握る

群馬県沼田市 高倉 嶮風

身にたとえ悲しきことがあるとても面輪に出さぬ人の厳しさ

千葉県柏市 中村 弘

新藁をのべし牛舎に吐息洩れ生れし仔牛に朝日さしくる

東京都町田市 谷川 治

夜の灯に鱗粉とばしぶつかり来る山国の蛾の荒々しかり

東京都町田市 谷川 治

戦争の昭和の時代遠ざかり振り返ること多くなりたり

東京都町田市 谷川 治

残雪の輝やく峯を真向かひに巡りし頃の懐かしきかな

群馬県太田市 白石 政江

秋は来ぬ朝夕冷えきて山脈は青々として目に爽なり

群馬県太田市 白石 政江

もうしてはいけない遊び「膝カックン」孫に教へて叱られてゐる

愛媛県新居浜市 大賀 康男

いちばん せんたー たかくらー 平和台球場夏の夜の夢

愛媛県新居浜市 大賀 康男

斜に構え「お先真暗にござんすよ」牧水嘆く啄木の部屋

岩手県盛岡市 森 義真

石仏の二人は永遠に抱き合えり枯草の中冬陽の温し

群馬県みなかみ町 増田 津恵

断捨離でしまつてあつたエプロン出す染みに蘇る料理と涙

群馬県みなかみ町 増田 津恵

返り花菫芝桜リラつつじ薄陽集めて精一杯生く

群馬県みなかみ町 増田 津恵

従兄の若者レイテで死すとふ屋根ある立派な墓の苔むす

群馬県みなかみ町 増田 津恵

雨蛙軒下に住み壁の色初冬となるに土に潜らず

群馬県みなかみ町 増田 津恵

『既読スルー』あの子は生きているんだろ淋しさの中小さな安堵

大阪府河内長野市 木村 嘉子

早弁は教壇からは丸見えと五年後に知る教師となつて

山口県光市 松本 進

抱かれている幼の笑み見ゆもう母と来ることはない眼科の椅子に

群馬県渋川市 忽滑谷 三枝子

十九才悲嘆に暮れる孫娘我が人生のバラ色の時

群馬県高崎市 塚越 小枝

昂ぶりを抑へむと深く息をすい舞に出づる襖に向きて

群馬県高崎市 塚越 小枝

坂道に手をのべくれたる吾子の指亡き夫そつくりなるにつかまる

群馬県高崎市 塚越 小枝

指の先香り流れる女形にらむ立役花形歌舞伎

群馬県高崎市 塚越 小枝

石段をこはごは下りる吾を支へ子の握る手のたのもしくあり

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

黄なるもの枝離れきて留守にする神々の庭きよらに覆ふ

石川県金沢市 前川 久宜

タブレット閉ぢて安寝へふふみぬるまことに小さきタブレットひとつ

石川県金沢市 前川 久宜

すがれゆく千草に思ふ老いわれに生きた証の子が二人ある

茨城県笠間市 飯田 初江

ひさびさに介護とかれて一人ぬの茶の間はわれのローマの休日

茨城県笠間市 飯田 初江

一周忌の読経に曾孫泣き出せばあやす亡母の声聞こえるような

岐阜県飛騨市 横山 美保子

会ふまでの時のなんたる長さかな細胞までも震へながら揺れ

群馬県前橋市 久保田 桂子

母さんは忘れていい思い出は私が全部覚えていてから

秋田県秋田市 蓬田 真弓

会いたくて会えない人の消息はいつそ届く笑顔だけ思う

秋田県秋田市 蓬田 真弓

柔らかき女踊りよ風を切る男踊りかおわら風の盆

岐阜県飛騨市 江尻 恵子

少年よたがためならずおのがため机に向かへ未来の為に

神奈川県横浜市 高山 克子

開け放つドアより聞こゆ高き声コーラス教室の発声練習

神奈川県横浜市 高山 克子

記念日を一緒に迎えてくれる花トルコキキョウは秋の輪郭

群馬県沼田市 桑原 環世

戦いが終わったような夜だったカルテに記されし父の永眠

群馬県沼田市 桑原 環世

右膝の痛みこらへて写経する古き御堂に山鳥の声

広島県福山市 杉之原 壽美

「変形性膝関節症」と名付けられシツプ数枚母受け取りぬ

神奈川県川崎市 藤原 礼子

生き抜きて節くれ立ちし^{てゆび}手指もて曾孫の^{ひまじ}頭撫でて母逝く

神奈川県川崎市 藤原 礼子

九条を守る思いで続けゆく平和のための戦争展を

宮崎県日向市 黒木 直行

過疎と過疎つなぐ隘路に忽然と^{おおざれ}大佐礼隧道とふ空気柱

愛媛県松山市 宇和上 正

懐かしむ爪先立ちになりしこと試合を観たり君を待ったり

愛媛県松山市 宇和上 正

誰のため何を為さんと地蔵尊に注ぐ月を我も浴びつつ

東京都文京区 遠藤 玲奈

茜雲のあはひに見たり一番星 地には湧きたつまでの虫の音

群馬県昭和村 板橋 きみ江

キャベツ畑に優雅に見ゆる紋白蝶 産卵の位置定めてあたり

群馬県昭和村 板橋 きみ江

里芋の根元に深くスコップを踏み込み太き根音たてて断つ

群馬県昭和村 板橋 きみ江

ギネス誌に糖度の高さ載る白桃培う里のにないてら老う

大阪府岸和田市 向井 靖雄

幼ころ母に教わる早春賦娘らと歌いし春七回忌

佐賀県唐津市 浦田 穂積

外^とつ国の君に宛てたる文は今遺品となりて思い出箱に

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

暮坂の峠越えると泉あり口に含めば牧水此処に

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

入院の友の面会ままならず窓を介して互いに振る手

群馬県みなかみ町 ベネット 昭子

紙を切るわたしと障子を貼る夫と秋陽の名残り背^{せな}にあつめて

群馬県みなかみ町 細川 のぶ子

午前九時降り出す気配を言ひ合ひて初冬の広場にベゴニアを抜く

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

古ダンス背広掛け置く一着の夫のネームにお守り込めて

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

陽に干して寒風さらさる干柿に手もみ加へて頃合ひを待つ

群馬県みなかみ町 荒木 洋子

再びは立てぬや槍^やヶ岳^りの頂にかつてのままの祠写さる

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

次つぎに黄の立葵咲き上り窓の近くにゆふべ明からむ

群馬県みなかみ町 眞庭 ヨシ子

「料理などスマホを見れば作れるよ」スマホ世代の事無げに言ふ

石川県金沢市 橋本 枝折

思ひ立ち五十分かけ白山麓へ美味しいコーヒー飲むためだけに

石川県金沢市 橋本 枝折

秋色に染まる景色に癒されるコロナ禍抜けるトンネル見えて

群馬県榛東村 高橋 恵

ぶら下がり林檎温暖化嫌いたる青味のまま収穫迎え

長野県飯綱町 井澤 栄一

墨にじむ和紙の白きに歌つらね赤き真弓の実こぼれ落つ

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

谷川岳うつすら白く雪化粧晩秋の風肌にさしくる

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

雲間よりISSが見え隠れ男孫と二人笑顔で見つむ

群馬県みなかみ町 眞庭 アイ子

訪う人はまばらなれども照葉峡もみじは雲間の日差しに燃ゆる

群馬県高崎市 猪俣 軍司

車窓より手を振る父母の遠ざかり里の山裾紅葉に染まる

大阪府柏原市 田倉 あけみ

若き日は歯向かひをりし猫老いて草の実つけて吾にすり寄る

群馬県高崎市 佐藤 香林

草の実を取りやれば喉鳴らせし猫老いて細りし身のまま逝きぬ

群馬県高崎市 佐藤 香林

記念樹のアオダモの木の数本がバットとなるべく冬日浴びをり

群馬県高崎市 佐藤 香林

紅葉の山々眺め列車旅お国なまりが郷愁誘う

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

SLが汽笛ひびかせ秋を行く稲穂波打つ紅葉の里

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

畦道にコスモス揺れる峽棚田稲架並びぬ紅葉の中

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

青き空紅葉眺め露天の湯頬撫でし風芒を揺らす

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

木曾街道郷愁誘う奈良井宿山峡紅葉今盛りなり

群馬県みなかみ町 原澤 芳雄

取り入れを終えて一息山の湯に秋の夕日が棚田を染める

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

秋空にパラグライダー舞い上がる少年の頃薪背負いし山

群馬県みなかみ町 阿部 伊亨

この町に姥捨の山無けれどもぼつぼつと在る老人施設

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

歌会の熱気溢れる会場の外に深紅の山茶花咲けり

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

眼前の畑一面霜白く拉致されし如月残りけり

群馬県みなかみ町 杉木 輝夫

嵩を増し雪解の利根轟々と若き太郎の猛し顔みる

群馬県みなかみ町 石坂 作次

S Lの汽笛に滲む哀愁が峽を響かせ夕日に消えゆく

群馬県みなかみ町 石坂 作次

久に訪ふ八十が詩いし藤原の湖底のふる里紅葉もえたつ

群馬県みなかみ町 石坂 作次

朝採りのトマトキューリにナス送る無農薬だと子等に誇りて

群馬県みなかみ町 石坂 作次

農始めエンジンの音空高く土黒々と生命掘り出す

群馬県みなかみ町 石坂 作次

鳴く虫のか細き声に耳澄ます柿むく背に小春日温し

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

照葉峡の初冬を告ぐる川瀬の道流れはやかに静寂を破る

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

儂くも凜と咲きゐる寒桜初冬の空に白き花落く

群馬県みなかみ町 石坂 喜美江

有袋類ならねど母のふところにしかと抱かるる春のみどり児

兵庫県宝塚市 小竹 哲

久々の友の電話に話弾み眠るあははず日記書き足す

山形県鶴岡市 大沼 二三枝

尾っぽ振る回数今日も増やさんと老い行く犬と落葉踏みしむ

京都府舞鶴市 新谷 洋子

明けやらぬ間に歌を詠む吾のをり静かに明けゆく立冬の朝

群馬県みなかみ町 吉田 まゆみ

マスクングテープの端に文通をはじめた頃のと きめきがある

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

白鷺の一声青田飛び立ちて空の青さに染まず溶けゆく

大分県国東市 原 比呂子

霰ふる電線の上にひつそりと飛びたつかこの一羽の鴉

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

妙見山の参道にあふ子供たち自販機にならぶ間隔あけて

大阪府豊能町 熊ノ郷 紀子

肺を病み余命宣告受けし兄日々の苦闘を日記に残す

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

二刀流大谷選手 MVP 守り続けむ父の教えを

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

高野山全山もみじ出迎えを受けし遠き日一人紐解く

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

あくがれの地と短歌われし町に住み日々穏やかに空気の旨し

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

百才の慶祝受けて笑む叔母と新米の膳輝き放つ

群馬県みなかみ町 澁谷 典子

五合目を超えた辺りで立ちくらむこらが限りか独り飲む酒

東京都中央区 佐藤 直大

からからと落穂転がる陽だまりにゆったり浸かりビアをひとくち

東京都中央区 佐藤 直大

ひたすらに山頂目指す足元を阻む蝮の蝮局でひと息

群馬県みなかみ町 篠原 悦二

農に生き米寿記念の初句集義父の人生迫体験す

群馬県千代田町 大谷 光男

猫パンダ冬満月に昇天す気配の失せし部屋寒さよ

群馬県千代田町 大谷 徳湖

廃屋のパチンコ店は壊されて戸建て住宅新しき街

群馬県前橋市 山崎 義樹

万歩計買った理由はあの人にキレイだねって言わせたいから

千葉県市川市 竹谷 華林

初ひ孫なかなか会えぬ曾祖母が覗いて笑むはスマホの動画

群馬県みなかみ町 小林 和子

コロナ禍のワクチン接種翌日に痛み忘れて初孫を抱く

群馬県みなかみ町 小林 和子

無事ですとラインの知らせほっとして可愛過ぎます初孫の顔

群馬県みなかみ町 小林 和子

いつの日か空を飛ぶ夢秋の夜に星の空へと吸い込まれてく

群馬県昭和村 加藤 南風

若い頃空に憧れ今宇宙飛行士の夢沸々と沸く

群馬県昭和村 加藤 南風

星の数顔を見上げて数えてるあといくつかな気がとおくなる

群馬県みなかみ町 倉田 富夫

母犬と子犬を連れてペガサスは冬の夜空に輝き渡り

群馬県みなかみ町 本多 寿美枝

西の空一番星を見つけたらいつも私を思い出してね

群馬県みなかみ町 田中 春枝

茗荷取り葉の裏側に空蟬の雨が続いてひぐらし聴けず

群馬県みなかみ町 本多 義二

射手の弓的をしぼっててんびん座乗っているのはさそり座の人

群馬県みなかみ町 本多 義二

カーテンを開ければ当たる天気予報色付く里に雨は降りつつ

群馬県みなかみ町 本多 義二

秋の夜にカシオペア見て北極星探して神話友らと語る

群馬県みなかみ町 篠原 香代

線引きで星をつなぐと見えてくる夜空のノートに三角四角

群馬県みなかみ町 大山 智也

田中さん油田探しに一人旅秋田犬連れアラブへ向かう

群馬県みなかみ町 篠原 忠

UFOか夜空に動くナゾの星全集中で行き先を追う

群馬県みなかみ町 篠原 忠

天然のプラネタリウム観てるよう雲ひとつ無い上牧の夜

群馬県みなかみ町 大山 真紀枝

天の川彦星さんと織姫が年に一度のデート楽しむ

群馬県みなかみ町 宮崎 りえ子

満天の星を見上げて深呼吸宇宙の営み肌を感じる

群馬県みなかみ町 小林 はつ江

運行を終えて車庫へと眠るバスひかりの積荷ふつと降ろして

群馬県みなかみ町 山崎 杜人

手を広げ夜空を抱く我つつみ神話を紡ぐ億万の光

群馬県片品村 金子 美由紀

初雪のニュース聞いていそいそとスキーを磨く友のツイート

群馬県片品村 金子 美由紀

夕焼けのせいにして君は頬の色ごまかしている冬のはじまり

群馬県前橋市 木下 美樹枝

あの頃はどんな話をしたのかなわづかな時間の君とのデート

福井県小浜市 玉井 令子

行こうかな「迷ったら止めな」と口癖の亡夫の声する京都の誘ひ

福井県小浜市 玉井 令子

東京で開催されるオリンピック閉会式現場見えず無念

大阪府大阪市 水上之川

東京でパラリンピック開かれる閉会式立ち会えず無念

大阪府大阪市 水上之川

関西でワールドマスタースターズ開かれる延期になっても一つ出たいなり

大阪府大阪市 水上之川

突然のコロナウイルス現れる終わる迄重い空気漂ふ

大阪府大阪市 水上之川

いつまでも二千円札大好きなり絶滅危惧紙幣として護る

大阪府大阪市 水上之川

舗装路のさくら模様のマンホールめぐる蝶らが鬼あそびする

東京都世田谷区 高橋 登喜

八十路まで生きられまいと思つたに家族のお陰で生かされる幸

群馬県みなかみ町 中島 淑子

あれこれと心忙しく思えども動けぬ身では諦めぬ術を

群馬県みなかみ町 中島 淑子

この身でも出来得ることの幾つかを捜しつつ生きゲームに夢中

群馬県みなかみ町 中島 淑子

藪の中笹ゆり求め踏み込めば蜘蛛の巣パックで顔面ゆがむ

宮城県宮崎市 青山 昌子

文化祭に向かふ乙女のハンドルにコキアのごときポンポン揺れて

群馬県渋川市 木暮 由利子

秋畑の雑草こまめに耒り終へ手甲のゴム入れ替へて仕舞ふ

群馬県高崎市 湯浅 茂子

癒えざるを知りつつ見舞ふ夫の床摩る腕に涙隠せり

群馬県みなかみ町 遠藤 長代

朝焼けに鴉が数羽鳴き交し北を目指して飛びて行きたり

群馬県高崎市 天田 勝元

日本晴八十八夜の風薫る見上げる空に鯉高く舞う

群馬県みなかみ町 真庭 唯芳

岳の雪まだらに見ゆる今日の朝いわし雲より輝り差込む

群馬県みなかみ町 真庭 三枝子

賞味期限あすにひかへて舞鶴の「ささ漬け」うまし小鯛熟れたる

広島県広島市 小野 系子

食べるよりこぼし隙間へ消える夢さがしつづける猿となる夜々

大阪府羽曳野市 凜 七星

もてあますこの感情と連れ立った七つ隣の何も無い町

大阪府羽曳野市 凜 七星

草引きに欠かせぬ軍手いまもなおその名は遺る平時にあれど

滋賀県大津市 船岡 房公

門先の梅の葉わずか色付きて令和四年をめざさんとす

千葉県船橋市 高屋 敏子

夕づけば八つ手の花によりてくるみつ峰も急に数の少し

千葉県船橋市 高屋 敏子

敬老の祝も届かず草刈りを手を止め仰ぐ蒼き秋天

群馬県みなかみ町 原澤 朝則

長雨に萩しだれたる墓を拭く石は冷たき彼岸夕暮

群馬県みなかみ町 原澤 朝則

表向き強気男の面を着け疲れ脱ぐ日の入る裏木戸

群馬県みなかみ町 原澤 朝則

別の世に離りし夫の寒がりに今朝は持ちゆく熱き缶珈琲

神奈川県座間市 蓮見 孝子

健康本ひらきみている書店内 バイトの孫の見える位置なり

京都府舞鶴市 鱒本 ミツ子

一周忌息子と大阪に納め来てコロナ禍ゆゑに漸くのけふ

東京都杉並区 堀井 邦子

淀屋橋に夫の勤めしビル残り国宝文化財とふ古く際立つ

東京都杉並区 堀井 邦子

御堂筋にわが勤めしの社屋あり変貌遂げてビルは高層

東京都杉並区 堀井 邦子

コロナ禍の卒寿をひとり短歌詠みて過疎となりゆく里に生きつぐ

京都府福知山市 阪根 まさの

大淀川の土手にすわりて決心す君とふたりで生きてゆくこと

宮崎県宮崎市 中村 葉月

じょうおうとおおさまなんて読まぬこと孫の絵本のルビに知る秋

鳥取県米子市 生田 麻也子

見渡せば流れ麗し風清し魅入つてしまふ四方の山々

埼玉県加須市 宮本 学

※ 高校生以下の部の作品は、一般の部とともに令和4年3月以降に

みなかみ町ホームページ内に掲載予定

第五回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和4年3月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379 | 1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321 | 1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278 (25) 5025

令和3年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第5回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和4年(2022)3月6日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

共催 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・おちあいしんぶんマイタウン
たにがわ・沼田エフエム放送株式会社・三成社株式会社
(一財)三国路与謝野晶子紀行文学館

